

プログラム

年会長講演

基調講演

特別講演

教育講演

特別企画シンポジウム

年会長企画シンポジウム

年会企画シンポジウム

委員会企画シンポジウム

優秀論文賞受賞講演

シンポジウム

ワークショップ

市民公開シンポジウム

メディカルセミナー

口頭発表

ポスター発表

年会長講演

地域におけるシームレスな緩和医療の実現に向けて

5月14日(土) 9:00~9:25 LIVE会場1

座長：徳山 尚吾（神戸学院大学・薬学部・臨床薬学研究室）
演者：稲葉 一郎（株式会社ハートフェルト）

基調講演

基調講演1 基礎研究成果を医療実装するためのトランスレーショナルリサーチ

5月14日(土) 9:30~10:30 LIVE会場1

座長：甲斐 広文（国立大学法人熊本大学
熊本大学大学院生命科学研究部附属グローバル天然物科学研究センター
遺伝子機能応用学分野）
演者：濱田 哲暢（国立研究開発法人 国立がん研究センター）

基調講演2 がんゲノム医療の誕生と未来

5月15日(日) 10:15~11:15 LIVE会場1

座長：成田 年（星薬科大学 薬理学研究室/国立がん研究センター研究所 がん患者病態生理研究分野）
演者：間野 博行（国立がん研究センター）

特別講演

SF作家 星 新一も描かなかった21世紀のがん診療：がん連携・がん支援・がん教育

5月14日(土) 10:40~11:40 LIVE会場1

座長：境 健爾（国立病院機構熊本医療センター 腫瘍内科）
演者：片淵 秀隆（くまもと森都総合病院）

教育講演

教育講演1 疼痛および悪液質を伴ったがん病態生理の統合的・科学的解釈

5月15日(日) 9:15~10:15 LIVE会場1

座長：鈴木 勉 (湘南医療大学薬学部)
演者：成田 年 (星薬科大学 薬理学研究室/
国立がん研究センター研究所 がん患者病態生理研究分野)

教育講演2 在宅緩和ケアと看取りー多職種連携とACPー

5月15日(日) 12:45~13:45 LIVE会場2

座長：宇田 和夫 (一般社団法人全国薬剤師・在宅療養支援連絡会/社会福祉法人下総プリンスクラブ)
演者：満岡 聡 (医療法人 満岡内科クリニック)

教育講演3 薬局薬剤師が関わる在宅緩和ケア“初級編”

5月15日(日) 13:50~14:50 LIVE会場2

座長：坂本 岳志 (有限会社サンメディカル あげぼの薬局 メディカル店)

教育講演3-1 薬局薬剤師が行う在宅緩和ケアとACP

千代延誠治 (株式会社 神埼薬局)

教育講演3-2 在宅緩和ケアにおける薬剤師の役割

菊池 幸助 (日出調剤薬局)

特別企画シンポジウム

特別企画 シンポジウム1 がんとの共生を鑑みた次世代型の緩和医療の展望(1)： がんゲノム医療とリンクする緩和医療におけるゲノム情報活用

5月14日(土) 13:00~15:00 LIVE会場2

オーガナイザー：成田 年 (星薬科大学 薬理学研究室/
国立がん研究センター研究所 がん患者病態生理研究分野)
間野 博行 (国立がん研究センター研究所)
座長：成田 年 (星薬科大学 薬理学研究室/
国立がん研究センター研究所 がん患者病態生理研究分野)
天谷 文昌 (京都府立医科大学 疼痛・緩和医療学教室)

特別企画1-1 がんとの共生を目指した国立がん研究センターの試み

青木 一教 (国立がん研究センター研究所)

特別企画1-2 日本におけるがんゲノム医療とデータ利活用

河野 隆志 (国立がん研究センター 研究所 ゲノム生物学研究分野/
国立がん研究センターがんゲノム情報管理センター (C-CAT))

特別企画1-3 がんゲノム医療支援病院におけるがんゲノム医療コーディネーター薬剤師の実際

伊東 俊雅 (東京女子医科大学附属足立医療センター がん包括診療部/薬剤部)

特別企画 シンポジウム2

がんとの共生を鑑みた次世代型の緩和医療の展望(2)： がん患者病態生理を最新科学する基礎・臨床研究

5月14日(土) 15:10~17:10 LIVE会場2

オーガナイザー：成田 年 (星薬科大学 薬理学研究室/国立がん研究センター研究所 がん患者病態生理研究分野)
間野 博行 (国立がん研究センター研究所)
座 長：葛巻 直子 (星薬科大学 薬理学研究室/国立がん研究センター研究所 がん患者病態生理研究分野)
宮野加奈子 (東京慈恵会医科大学 疼痛制御研究講座)

特別企画2-1 がん緩和ケアと臨床研究

里見絵理子 (国立がん研究センター中央病院 緩和医療科/
順天堂大学大学院医学研究科緩和医療学)

特別企画2-2 免疫応答に着目した新しいせん妄医療の開発

貞廣 良一 (国立がん研究センター中央病院)

特別企画2-3 包括的緩和基礎研究によるがん病態生理の統合的病態解析

成田 年 (星薬科大学 薬理学研究室)

特別企画 シンポジウム3

2021年ノーベル生理学・医学賞関連： 感覚センサー研究の歩みと今後の展望

5月15日(日) 9:15~10:45 LIVE会場3

オーガナイザー：中川 貴之 (京都大学医学部附属病院 薬剤部)
座 長：津田 誠 (九州大学 大学院薬学研究院薬理学分野)
中川 貴之 (京都大学医学部附属病院 薬剤部)

特別企画3-1 温度感受性TRPチャンネル研究の歩みと今後の展望

富永 真琴 (生理学研究所/生命創成探究センター)

特別企画3-2 メカノセンサーPiezoチャンネルの魅力とその可能性

池田 亮 (東京慈恵会医科大学 整形外科学講座)

年会長企画シンポジウム

年会長企画 シンポジウム1

地域包括ケアシステムにおける緩和医療の均てん化について

5月14日(土) 13:00~15:00 LIVE会場1

オーガナイザー：稲葉 一郎 (株式会社ハートフェルト)
吉武 淳 (熊本大学病院 がんセンター 緩和ケアセンター)
座 長：稲葉 一郎 (株式会社ハートフェルト)
吉武 淳 (熊本大学病院 がんセンター 緩和ケアセンター)

年会長企画1-1 地域における緩和医療、特にがん性疼痛対策の均てん化に向けた取り組み (医師の立場から)

住谷 昌彦 (東京大学医学部附属病院緩和ケア診療部/
東京大学大学院医学系研究科疼痛・緩和病態医科学講座)

年会長企画 1-2 地域における緩和医療の均てん化に向けた取組(薬剤師の立場から)

龍 恵美(長崎大学病院 薬剤部/長崎大学病院 緩和ケアセンター)

年会長企画 1-3 地域包括ケアシステムにおける緩和医療の均てん化～薬局の立場から～

坂本 岳志(あけぼの薬局メディカル店)

年会長企画 1-4 薬局薬剤師による地域緩和医療の推進

久保田 忍(つばめ薬局)

年会長企画 シンポジウム2 医療用麻薬の適正使用における薬剤師の役割 ー緩和薬物療法の質の向上を目指してー

5月14日(土) 15:10～17:10 LIVE会場1

オーガナイザー:稲葉 一郎(株式会社ハートフェルト)

鈴木 順子(北里大学)

座長:稲葉 一郎(株式会社ハートフェルト)

鈴木 順子(北里大学)

年会長企画 2-1 緩和医療における薬剤師業務の変遷とこれからの病院薬剤師に期待すること

加賀谷 肇(湘南医療大学 薬学部)

年会長企画 2-2 令和4年度診療報酬改定と薬剤師に求められること

紀平 哲也(厚生労働省 保険局医療課)

年会長企画 2-3 地域包括ケアシステムの中での薬剤師・薬局の役割について

磯部総一郎(公益社団法人日本薬剤師会)

年会長企画 2-4 旧健保委員会による調査結果について病院薬剤師の立場から

岡本 禎晃(市立芦屋病院)

年会長企画 2-5 医療用麻薬の適正使用における薬剤師の役割

ー在宅緩和ケアに関わる薬局薬剤師の立場からー

天方 奉子(薬局セントラルファーマシー長嶺)

年会長企画 シンポジウム3 激甚災害と緩和医療

5月15日(日) 12:45～14:45 LIVE会場1

オーガナイザー:稲葉 一郎(株式会社ハートフェルト)

高山 和郎(東京大学医学部附属病院 薬剤部)

座長:稲葉 一郎(株式会社ハートフェルト)

高山 和郎(東京大学医学部附属病院 薬剤部)

年会長企画 3-1 激甚災害時の救護・支援体制について ～緩和医療の継続には何が必要なのか～

高山 和郎(東京大学医学部附属病院 薬剤部)

年会長企画 3-2 東日本大震災時の薬剤師の活動から

金野 良則(気仙中央薬局)

年会長企画 3-3 熊本地震の経験とその後の対応～病院薬剤師の立場から～

山室 蒔子(熊本市立熊本市市民病院薬剤部)

年会長企画 3-4 熊本地震の経験とその後の対応についてー保険薬局の立場からー

天方 奉子(薬局セントラルファーマシー長嶺)

年会企画シンポジウム

年会企画 シンポジウム1 緩和医療に従事する薬剤師の育成とさらなる成熟を目指して ー現状と今後の展望ー

5月14日(土) 9:30~11:30 LIVE会場3

オーガナイザー：徳山 尚吾（神戸学院大学 薬学部 臨床薬学研究室）
座長：徳山 尚吾（神戸学院大学 薬学部 臨床薬学研究室）

本シンポジウムの企画概要と今後への期待

徳山 尚吾（神戸学院大学 薬学部 臨床薬学研究室）

年会企画1-1 大学における緩和医療薬学教育の現状と今後の展望

鈴木 勉（湘南医療大学薬学部）

年会企画1-2 実務実習における緩和医療教育の現状と今後の展望

岡本 禎晃（市立芦屋病院）

年会企画1-3 Pharmacist-Scientistが目指すDry & Wet研究によるエビデンスの創出

相澤 風花（徳島大学病院 薬剤部）

年会企画1-4 日本緩和医療薬学会が目指す緩和医療に従事する薬剤師の育成の現状と今後の展望

中川 貴之（京都大学医学部附属病院薬剤部）

年会企画 シンポジウム2 アセトアミノフェンとNSAIDs、どちらを選びますか？ ～アセトアミノフェンとNSAIDsの有効性・安全性を考える～

5月15日(日) 9:15~11:15 LIVE会場2

オーガナイザー：石塚 洋一（熊本大学大学院生命科学研究部・薬学部 臨床薬理学分野）
近藤 悠希（熊本大学大学院生命科学研究部・薬学部 臨床薬理学分野）
座長：門脇 大介（崇城大学薬学部 医療薬剤学研究室）
猿渡 淳二（熊本大学 大学院生命科学研究部）

オープニング

石塚 洋一（熊本大学大学院生命科学研究部・薬学部 臨床薬理学分野）

年会企画2-1 NSAIDsとアセトアミノフェンの腎障害に関する比較研究

西村 文宏（熊本中央病院 薬剤科）

年会企画2-2 NSAIDsとアセトアミノフェンー安全性の視点から

三星 知（下越病院 薬剤課）

年会企画2-3 非ステロイド性抗炎症薬の有効性

宮本 康敬（浜松医療センター 薬剤科）

年会企画2-4 アセトアミノフェンの有効性

富士谷昌典（社会医療法人生長会 府中病院 薬剤部）

クローージング

門脇 大介（崇城大学薬学部 医療薬剤学研究室）

年会企画 シンポジウム3

分子標的薬の副作用マネジメント －患者フォローに必要な薬剤師のスキル－

5月15日(日) 12:45～14:45 LIVE会場3

オーガナイザー：松尾 宏一（福岡大学 薬学部）
座長：松尾 宏一（福岡大学 薬学部）
吉村 知哲（大垣市民病院 薬剤部）

年会企画3-1 分子標的薬の概要と副作用マネジメントに必要な薬剤師のスキル

林 稔展（福岡大学薬学部）

年会企画3-2 消化器症状のマネジメントに必要なスキル

内山 将伸（福岡大学病院 薬剤部）

年会企画3-3 薬剤性肺障害のマネジメントに必要なスキル

鍛冶園 誠（岡山大学病院）

年会企画3-4 皮膚障害のマネジメントに必要なスキル

青山 剛（公益財団法人 がん研究会有明病院 薬剤部）

委員会企画シンポジウム

委員会企画 シンポジウム1 [専門・認定制度委員会]

2021年度緩和薬物療法認定薬剤師審査における 優秀症例から学ぶ薬学的介入の実際

5月14日(土) 9:30～11:30 LIVE会場4

オーガナイザー：金子 健（慶応義塾大学病院薬剤部）
佐藤 淳也（国際医療福祉大学病院/国際医療福祉大学 薬学部/薬学部）
座長：佐藤 淳也（国際医療福祉大学病院/国際医療福祉大学 薬学部/薬学部）
阿久井千亜紀（兵庫医科大学病院薬剤部）

オープニング（優秀症例の審査方法など）

佐藤 淳也（国際医療福祉大学病院薬剤部・国際医療福祉大学薬学部）

委1-1 ALS患者に対する緩和薬物療法の一例

水谷 彰史（JA北海道厚生連札幌厚生病院）

委1-2 緩和ケアチームにおける薬剤師の役割 ～認知症患者の苦痛緩和へのアプローチ～

山下のどか（豊川市民病院）

委1-3 保険薬局における薬学的介入の実際 ～不測の事態への対応～

加藤 悠（クラフト株式会社 さくら薬局 壬生店）

委1-4 訪問薬剤師が行う薬学的介入

瀬戸 聡（株式会社エルマノ すばる中央薬局 大船店）

クロージング（認定者へのエール）

阿久井千亜紀（兵庫医科大学病院薬剤部）

委員会企画
シンポジウム2
【教育研修委員会】

麻薬教育認定薬剤師制度の概要と今後の展望について

5月14日(土) 13:00~15:00 LIVE会場3

オーガナイザー：中川 貴之（京都大学医学部附属病院 薬剤部）
吉澤 一巳（東京理科大学 薬学部）
座長：中川 貴之（京都大学医学部附属病院 薬剤部）
吉澤 一巳（東京理科大学 薬学部）

委2-1 麻薬教育認定薬剤師制度の再開とその概要

中川 貴之（京都大学医学部附属病院薬剤部）

委2-2 麻薬教育認定薬剤師制度における必須研修会の概要と目的

伊藤 剛貴（草加市立病院）

委2-3 麻薬教育認定試験の概要

吉澤 一巳（東京理科大学 薬学部 疾患薬理学研究室）

委2-4 麻薬教育・普及活動の実態や障壁に関する調査結果報告

佐伯 朋哉（国家公務員共済組合連合会 横浜南共済病院）

委2-5 薬剤師による学校教育における注意点とポイント

田口 真穂（横浜薬科大学 臨床薬学科 レギュラトリーサイエンス研究室）

委2-6 中高生に対する教育の実践

横山 郁子（神戸薬科大学）

委員会企画
シンポジウム3
【専門・認定制度委員会】

緩和薬物療法認定薬剤師の取得と更新に向けて
－症例報告書の書き方と認定試験を中心に－

5月14日(土) 15:40~16:50 LIVE会場6

オーガナイザー：平山 武司（北里大学北里研究所病院 薬剤部）
金子 健（慶應義塾大学病院 薬剤部・緩和ケアセンター）
座長：金子 健（慶應義塾大学病院 薬剤部・緩和ケアセンター）
平山 武司（北里大学北里研究所病院 薬剤部）

委3-1 2021年度認定審査・更新審査の結果について

平山 武司（北里大学北里研究所病院 薬剤部）

委3-2 症例報告の書き方

田中 育子（市立芦屋病院 薬剤科）

委3-3 緩和薬物療法認定試験の概要について

村井 扶（ソーク薬局／日本緩和医療薬学会 試験員会）

委員会企画
シンポジウム4
【地域連携委員会】

緩和医療に求められる地域連携の課題と明日からの道標

5月15日(日) 9:15~11:15 LIVE会場5

オーガナイザー：小林 篤史（株式会社佳林 カリン薬局）
鈴木 順子（北里大学）
座長：細川 泰博（クラフト本社株式会社 教育企画部）
岡本 禎晃（市立芦屋病院 薬剤科）

委4-1 退院支援における理想と現実

笠原 庸子（県立広島病院薬剤科）

委4-2 地域連携でうまくいかなかった11の事例と今後の課題

宇野 達也（ヤナセ薬局 在宅医療部）

委4-3 在宅緩和ケアにおいて薬剤師に求められる地域連携とは～医師の立場から～

児玉 佳之（医療法人社団佳生会 こだま在宅内科緩和ケアクリニック）

委4-4 薬局機能の見える化と薬剤師連携による緩和ケアの質の向上について

天方 奉子（薬局セントラルファーマシー長嶺）

委員会企画
シンポジウム5
【臨床研究委員会】

臨床研究委員会企画：緩和薬物療法認定薬剤師における
保険加算業務に導くエビデンス構築

5月15日(日) 9:15~10:45 LIVE会場6

オーガナイザー：高瀬 久光（日本医科大学多摩永山病院 薬剤部）
内田まやこ（同志社女子大学 薬学部）
座長：高瀬 久光（日本医科大学多摩永山病院 薬剤部）
内田まやこ（同志社女子大学 薬学部）

委5-1 緩和ケアにおける薬剤師の副作用への介入：多施設パイロット調査

中川 左理（神戸学院大学 薬学部）

委5-2 緩和薬物療法認定薬剤師の介入の医療経済効果に関する多施設共同後方視的観察研究

川尻 雄大（九州大学大学院 薬学研究院）

委5-3 緩和薬物療法認定薬剤師による介入指導の実態調査および非認定薬剤師との比較検討

田中 怜（静岡県立静岡がんセンター 薬剤部／東京理科大学 薬学部）

委5-4 エビデンス創出の軌跡

内田まやこ（同志社女子大学薬学部）

優秀論文賞受賞講演

優秀論文賞受賞講演

5月15日(日) 14:50~15:50 LIVE会場1

座長：伊勢 雄也（日本医科大学付属病院 薬剤部）
佐藤 淳也（国際医療福祉大学病院 薬剤部）

優秀論文賞受賞講演-1 優秀論文賞を受賞して

（論文タイトル：Are Corticosteroids Useful for End-stage Cancer Patients?
A Retrospective Chart Review in the Palliative Care Unit）

田中 育子（市立芦屋病院 薬剤科）

優秀論文賞受賞講演-2 優秀論文賞を受賞して

（論文タイトル：Pharmacological analysis of hydromorphone acting as a
 β -arrestin-nonpreferred strong μ -opioid receptor ligand）

竹村 佳記（富山大学附属病院 麻酔科／星薬科大学 薬理学研究室）

シンポジウム

シンポジウム1 癌化学療法患者の口腔粘膜炎による予防対策 ー病院・アカデミア連携で取り組む口腔支持療法ー

5月14日(土) 9:30~11:30 LIVE会場5

オーガナイザー：吉田 謙介（新潟大学医歯学総合病院 薬剤部／新潟大学顎顔面口腔外科学分野）
渡邊 真一（松山大学 薬学部 医療薬学科）
座長：杉浦 宗敏（東京薬科大学 薬学部 医薬品安全管理学教室）
鈴木 直人（新潟大学 医歯学総合病院 薬剤部）

- S1-1 口腔粘膜炎対策における現状ー免疫チェックポイント阻害薬を中心にー
黒川 亮（新潟大学医歯学総合病院 医療連携口腔管理治療部／新潟大学医歯学総合病院
顎顔面口腔外科）
- S1-2 口腔粘膜炎対策に対して薬剤師として出来ることーアカデミア連携による臨床現場でのアプ
ローチー
吉田 謙介（新潟大学医歯学総合病院 薬剤部）
- S1-3 口腔粘膜炎対策において大学が出来ること
渡邊 真一（松山大学薬学部 医療薬学研究室）

シンポジウム2 緩和ケア病棟における薬剤師の活動と課題

5月14日(土) 9:30~11:30 LIVE会場6

オーガナイザー：萬谷摩美子（医療法人愛和会 愛和病院 薬局）
武井 大輔（地方独立行政法人埼玉県立病院機構 埼玉県立がんセンター 薬剤部）
座長：萬谷摩美子（医療法人愛和会 愛和病院 薬局）
武井 大輔（地方独立行政法人埼玉県立病院機構 埼玉県立がんセンター 薬剤部）

- S2-1 緩和ケア病棟に薬剤師は必要です！！
和泉早智子（医療法人 東札幌病院）
- S2-2 緩和ケア病棟への専任薬剤師常駐の確立に向けて ～病棟常駐に向けた活動とその後の有用性や
医療経済効果～
土屋 裕伴（AMG 上尾中央総合病院 薬剤部）
- S2-3 独立型緩和ケア病棟の立場から～麻薬管理、医療安全の観点を中心に～
椎崎 正秀（公立八女総合病院企業団 みどりの杜病院 薬剤科）
- S2-4 独立型PCUにおける薬剤師の活動～シームレスなケアを目指して
萬谷摩美子（医療法人愛和会 愛和病院）

シンポジウム3 副作用データベース研究のキホンから応用まで

5月14日(土) 13:00~14:30 LIVE会場4

オーガナイザー：植沢 芳広（明治薬科大学 医療分子解析学研究室）
内田まやこ（同志社女子大学 薬学部）
座長：植沢 芳広（明治薬科大学 医療分子解析学研究室）
内田まやこ（同志社女子大学 薬学部）

- S3-1 大規模データベース研究、はじめの一步
内田まやこ（同志社女子大学薬学部）

S3-2 我が国における非がん患者を対象としたオピオイド鎮痛薬の有害事象解析

菅原 英輝（鹿児島大学病院）

S3-3 COVID-19ワクチン接種後の塞栓及び血栓症とワクチンタイプの関係

菅 裕亮（なの花薬局 昭島駅前店）

S3-4 薬剤性しゃっくりの謎 ～FAERSを用いた探索的研究～

細谷龍一郎（武蔵野赤十字病院薬剤部）

シンポジウム4 小児緩和ケアにおける薬物療法の現状と薬剤師の役割

5月14日(土) 13:00～15:00 LIVE会場5

オーガナイザー：金子 健（慶應義塾大学病院 薬剤部・緩和ケアセンター）

黒岩祐里香（国立成育医療研究センター 薬剤部）

座長：金子 健（慶應義塾大学病院 薬剤部・緩和ケアセンター）

黒岩祐里香（国立成育医療研究センター 薬剤部）

S4-1 小児緩和ケアにおける連携の視点

石川 洋一（明治薬科大学 小児医薬品評価学研究室）

S4-2 当院における小児緩和ケアへの取り組み

黒岩祐里香（国立成育医療研究センター 薬剤部）

S4-3 大学病院の小児緩和ケアにおけるオピオイド鎮痛薬の使用状況と薬剤師の役割

福田 正悟（慶應義塾大学病院 薬剤部）

S4-4 小児緩和ケアにおける薬物療法

多田羅竜平（大阪市立総合医療センター 緩和医療科兼緩和ケアセンター）

シンポジウム5 がん悪液質に対する最新の知見

5月14日(土) 13:00～15:00 LIVE会場6

オーガナイザー：大澤 匡弘（名古屋市立大学 大学院薬学研究科）

二村 明彦（藤田医科大学七栗記念病院）

座長：大澤 匡弘（名古屋市立大学 大学院薬学研究科）

二村 明彦（藤田医科大学七栗記念病院）

S5-1 基礎研究から眺めるがん悪液質治療

大澤 匡弘（名古屋市立大学 大学院薬学研究科 神経薬理学分野）

S5-2 がん悪液質の国際調査から見えてきたがん悪液質診療における薬剤師への期待

二村 昭彦（藤田医科大学七栗記念病院）

S5-3 保険薬局におけるがん悪液質への介入の現状

柴田 賢三（株式会社ヤナセ薬局 センター調剤薬局豊田厚生病院前店）

S5-4 がん悪液質に対する臨床研究の最近の話題

内藤 立暁（静岡県立静岡がんセンター）

S5-5 がん悪液質治療の今後

乾 明夫（鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 漢方薬理学共同研究講座）

シンポジウム6

臨床で遭遇する医療用麻薬の管理・指導や規制に対する実践的な取り組み

5月14日(土) 15:10~17:10 LIVE会場3

オーガナイザー：山本 泰大 (小牧市民病院 薬局)
佐藤 淳也 (国際医療福祉大学病院/国際医療福祉大学 薬剤部/薬学部)
座長：佐藤 淳也 (国際医療福祉大学病院/国際医療福祉大学 薬剤部/薬学部)
高瀬 久光 (日本医科大学多摩永山病院 薬剤部)

S6-1 病院および保険薬局における医療用麻薬の指導実態調査

山本 泰大 (小牧市民病院 薬局)

S6-2 オピオイド服用患者における自動車運転に関する薬剤師の説明実施状況の実態調査

宮崎 雅之 (名古屋大学医学部附属病院薬剤部)

S6-3 『医療機関における海外渡航時の規制医薬品に関する全国実態調査』と薬剤師として知っておくべき知識

石原 千春 (調剤薬局amano名古屋医療センター前2号店)

S6-4 入院患者における医療用麻薬自己管理普及状況の実態調査

佐藤 淳也 (国際医療福祉大学病院/国際医療福祉大学 薬剤部/薬学部)

シンポジウム7

薬剤師だからできるアドバンス・ケア・プランニング(ACP) － 出来ること、一歩踏み出すためには －

5月14日(土) 15:10~17:10 LIVE会場4

オーガナイザー：鍛冶園 誠 (岡山大学病院 薬剤部)
北村 佳久 (就実大学 薬学部 薬物治療学)
座長：北村 佳久 (就実大学 薬学部 薬物治療学)
杉浦 聡 (株式会社マスカット薬局)

S7-1 薬剤師が実践するACPの現状と問題点

鍛冶園 誠 (岡山大学病院)

S7-2 病院薬剤師におけるACPの関わり

山本 紗織 (社会医療法人敬愛会 中頭病院 薬剤部)

S7-3 外来で治療を続けるがん患者に寄り添うために ～保険薬局薬剤師にできること～

江淵 愛 (総合メディカル株式会社 そうごう薬局 天神中央店)

S7-4 がん患者とのコミュニケーション -薬剤師に期待することなど-

今村 隆 (公益財団法人倉敷中央医療機構 倉敷中央病院 臨床心理室)

シンポジウム8

場所は違えど同じ方向を目指す疼痛緩和治療 ～薬薬連携を俯瞰して見たその先に～

5月14日(土) 15:10~17:10 LIVE会場5

オーガナイザー：中島 美紀 ((有)キムラ薬局)
座長：中島 美紀 ((有)キムラ薬局)
上ノ段友里 (中津市立中津市民病院 診療部 薬剤科)

シンポジウム趣旨説明

上ノ段友里 (中津市民病院薬剤科)

S8-1 医療資源の少ない地域だからこそそのチームケア

星 利佳 (ほし薬局)

- S8-2 連携のトップランナーと並走する病院薬剤師から見る薬薬連携を通じた緩和医療
磯田 祥（中津市立中津市民病院 薬剤科）
- S8-3 シームレスな疼痛緩和治療を繋ぐひとつ屋根の下の薬薬連携
門下 鉄也（あずまみまもり薬局）
- S8-4 病院薬剤師の目線で考える薬薬連携を通じた緩和医療
笠原 庸子（県立広島病院薬剤科）

シンポジウム9 がん患者の食欲不振に多角的な視点でアプローチしよう!!

5月15日(日) 9:15~11:15 LIVE会場4

オーガナイザー：竹迫 秀和（鹿児島市立病院 薬剤部）
鈴木 慶介（公益社団法人 地域医療振興協会 台東区立台東病院）
座長：村田 尚道（医療法人社団 湧泉会 ひまわり歯科）
上葛 義浩（藤田医科大学岡崎医療センター 薬剤部 医薬品情報管理室）

- S9-1 栄養サポートを専門とする立場からのアプローチ
吉田 貞夫（ちゅうざん病院／金城大学）
- S9-2 老年薬学認定薬剤師の立場からのアプローチ
～食欲不振をポリファーマシーの視点で介入するために～
伊藤聡一郎（公立陶生病院）
- S9-3 食欲不振に対する味覚障害の視点でのアプローチ
竹迫 秀和（鹿児島市立病院 薬剤部 DI室）
- S9-4 現役がん患者・緩和ケア医の立場としての経験を踏まえたアプローチ
大橋 洋平（海南病院 緩和ケア）
- S9-5 がん患者の食欲不振はマルチファクター、多職種で多角的にとらえよう
丸山 道生（田無病院）

シンポジウム10 地域を支える緩和医療構築のための病診薬連携

5月15日(日) 12:45~14:45 LIVE会場5

オーガナイザー：畑 加奈子（くまもと県北病院・薬剤部）
近藤 元三（薬局セントラルファーマシー長嶺 医療連携部）
座長：近藤 元三（薬局セントラルファーマシー長嶺 医療連携部）
藤井 裕史（JCHO人吉医療センター 薬剤部）

- S10-1 在宅での過ごし方をふまえた薬薬連携 ～病院から薬局へ～
畑 加奈子（くまもと県北病院 薬剤部）
- S10-2 在宅での過ごし方を踏まえた薬々連携 ～薬局なりに～
久保田 忍（つばめ薬局）
- S10-3 天草版オピオイドフォーミュラリー構築に向けての薬剤師会の取り組み
松本 亮二（JCHO天草中央総合病院／天草郡市薬剤師会）
- S10-4 阿蘇地域において病診薬連携で目指していること
櫻間 啓基（阿蘇医療センター）

シンポジウム11 「メサドン」という選択肢を活かすために！ ～ 薬剤師が知っておくべきエトセトラ ～

5月15日(日) 12:45～14:45 LIVE会場6

オーガナイザー：岸本 真（霧島市立医師会医療センター 薬剤部）
座長：岸本 真（霧島市立医師会医療センター 薬剤部）
笠原 庸子（県立広島病院 薬剤科）

S11-1 趣旨説明；メサドンという選択肢への誘い

岸本 真（霧島市立医師会医療センター）

S11-2 「そろそろメサドン？」「なぜメサドン？」と思ったら

笠原 庸子（県立広島病院薬剤科）

S11-3 メサドンの流通管理体制と薬剤師が押さえておくべきポイント

磯貝 明彦（JA広島総合病院 薬剤部）

S11-4 ヒドロモルフォンからメサドンにスイッチングした症例より

豊留 麻衣（霧島市立医師会医療センター 薬剤部）

S11-5 在宅におけるメサドンを用いた治療を継続するための保健薬局での取り組み

山下 晃史（南熊本調剤薬局）

ワークショップ

ワークショップ1 がん治療からシームレスな緩和医療にむけて～こころみ

5月14日(土) 9:15～11:45 LIVE会場7

オーガナイザー：高瀬 久光（日本医科大学多摩永山病院 薬剤部）
井手口直子（帝京平成大学 薬学部）
片山 志郎（日本BCG研究所）
平井みどり（神戸大学）

座 長：平井みどり（神戸大学）
片山 志郎（日本BCG研究所）

講 師：WS1-1 いま、薬剤師の介入は、想像以上に求められている

藤堂 真紀（埼玉医科大学国際医療センター）

WS1-2 がん治療と緩和医療のシームレスな移行における障害と対策

大野 真司（がん研究会有明病院 乳腺センター）

ファシリテーター：今村 牧夫（倉敷成人病センター 診療支援部）
内田まやこ（同志社女子大学 薬学部）
川名真理子（亀田総合病院 薬剤部）
菅原 英輝（鹿児島大学病院 薬剤部）
中川 左理（神戸学院大学 薬学部）
中川 隼一（東京慈恵会医科大学附属第三病院 薬剤部）
矢野 琢也（住友別子病院 薬剤部）

ワークショップ2 かんわCafé

5月15日(日) 9:15～11:15 LIVE会場7

オーガナイザー：金子 健（慶應義塾大学病院 薬剤部・緩和ケアセンター）
伊東 俊雅（東京女子医科大学附属足立医療センター 薬剤部）

座 長：金子 健（慶應義塾大学病院 薬剤部・緩和ケアセンター）
伊東 俊雅（東京女子医科大学附属足立医療センター 薬剤部）

ファシリテーター：加藤あゆみ（日本医科大学付属病院 薬剤部）
岸田 悦子（日本医科大学付属病院 薬剤部）
佐久間詠理（医療法人社団 淳友会 わたホームクリニック）
前田 桂吾
大野 朋子（株式会社akホールディングス 上永谷薬局）
周治由香里（東京女子医科大学附属足立医療センター 薬剤部）
林 隼輔（東京慈恵会医科大学附属柏病院 薬剤部）
結城 奈美（東京都済生会中央病院 薬剤部）
中川 隼一（東京慈恵会医科大学附属第三病院 薬剤部）

市民公開シンポジウム

市民公開 シンポジウム

がんサバイバーシップ ーがんと告げられて生き抜くあなたに必要なことー

5月15日(日) 13:30~15:00 LIVE会場4

座長：吉田 稔（日本赤十字社 熊本健康管理センター）
吉武 淳（熊本大学病院 がんセンター 緩和ケアセンター）

がんサバイバーの健康管理について

吉田 稔（日本赤十字社 熊本健康管理センター）

緩和ケアの意思決定「人生会議」について

吉武 淳（熊本大学病院 がんセンター 緩和ケアセンター）

緩和ケアにおける歯科の役割について

三森 康弘（熊本県歯科医師会）

がんサロンネットワーク熊本の活動

馬見塚まゆみ（がんサロンネットワーク熊本）

あなたに寄り添う『かかりつけ薬局』

松田 陽子（薬剤師／がん医療ネットワークシニアナビゲーター）

メディカルセミナー

メディカルセミナー 1 地域緩和ケア連携&地域薬薬連携 ~携帯型ディスプレイ注 入ポンプを用いてナルベイン等のオピオイド鎮痛薬を継続 する地域連携の取り組みを通して~

5月14日(土) 11:45~12:45 LIVE 会場1

座長：平井 俊明 (JA広島総合病院 薬剤部)
演者：権 哲 (済生会滋賀県病院 疼痛 (ペインクリニック)・緩和ケア科)

第一三共株式会社

メディカルセミナー 2 どんな痛みにも対応できるようになるには ~“難治性疼痛”を解きほぐす~

5月14日(土) 11:45~12:45 LIVE 会場2

座長：吉澤 明孝 (要町病院)
演者：余宮きのみ (埼玉県立がんセンター)

久光製薬株式会社

メディカルセミナー 3 最近のがん疼痛緩和におけるメサドンの話題

5月14日(土) 11:45~12:45 LIVE 会場3

座長：吉武 淳 (熊本大学病院 がんセンター 緩和ケアセンター)
演者：岡本 禎晃 (市立芦屋病院)

帝國製薬株式会社 / テルモ株式会社

メディカルセミナー 4 経口抗がん剤で「支える」人生と、「守る」QOL

5月14日(土) 11:45~12:45 LIVE 会場4

座長：陣上 祥子 (熊本赤十字病院 薬剤部)
演者：采田 志麻 (熊本赤十字病院 血液腫瘍内科)

大鵬薬品工業株式会社

メディカルセミナー 5 高齢者におけるポリファーマシーと緩和ケア

5月14日(土) 11:45~12:45 LIVE 会場5

座長：佐野 元彦 (星薬科大学 実務教育研究部門)
演者：木澤 義之 (筑波大学附属病院 緩和支援治療科)

あゆみ製薬株式会社

メディカルセミナー 6 痒い所に手が届く、緩和に漢方ーがんにも、がん以外にもー

5月14日(土) 11:45~12:45 LIVE 会場6

座長：大澤 匡弘 (名古屋市立大学 大学院薬学研究科 神経薬理学分野)
演者：加島 雅之 (熊本赤十字病院 総合内科)

クラシエ薬品株式会社

メディカルセミナー 7 がんの陽子線治療

5月14日(土) 11:45~12:45 LIVE 会場7

座長：甲斐 広文（熊本大学大学院生命科学研究部）
演者：荻野 尚（一般社団法人メディポリス医学研究所メディポリス国際陽子線治療センター）

株式会社新日本科学

メディカルセミナー 8 (モーニングセミナー) 苦痛緩和が難しい患者への向き合いかた

5月15日(日) 8:10~9:00 LIVE 会場3

座長：金子 健（慶應義塾大学病院 薬剤部 緩和ケアセンター）
演者：池永 昌之（淀川キリスト教病院 緩和医療内科）

東レ株式会社／住友ファーマ株式会社

メディカルセミナー 9 がん患者の非がん性慢性疼痛へのオピオイド鎮痛薬の誤用・乱用の実際と理解、そして、その防止のための薬剤師の役割

5月15日(日) 11:30~12:30 LIVE 会場1

座長：中川 貴之（京都大学医学部附属病院 薬剤部）
演者：細川 豊史（洛和会丸太町病院）

塩野義製薬株式会社

メディカルセミナー 10 がんサバイバーシップを支える ～緩和支援療法としての漢方～

5月15日(日) 11:30~12:30 LIVE 会場2

座長：齋藤 秀之（熊本大学病院 薬剤部）
演者：里見絵理子（国立がん研究センター中央病院 緩和医療科）

株式会社ツムラ

メディカルセミナー 11 多様化するがんサバイバーシップを支える服薬の工夫 ～緩和ケア外来におけるオキシコドン内服液の使用経験～

5月15日(日) 11:30~12:30 LIVE 会場3

座長：佐藤 薫（福島県立医科大学医学部 麻酔科学講座）
演者：村上あきつ（香川大学医学部附属病院がんセンター）

日本臓器製薬株式会社

メディカルセミナー 12 小児・AYA世代の緩和ケアについて考える ～届ける際に大切にしたいこと～

5月15日(日) 11:30~12:30 LIVE 会場4

座長：山谷 明正（国立成育医療研究センター 薬剤部）
演者：余谷 暢之（国立成育医療研究センター 総合診療部 緩和ケア科）

日本調剤株式会社

メディカルセミナー 13 がん患者の痛みが「がん疼痛」から「がん性疼痛」になった意義を考える

5月15日(日) 11:30~12:30 LIVE 会場5

座長：岡本 禎晃（市立芦屋病院薬剤科）

演者：住谷 昌彦（東京大学医学部附属病院緩和ケア診療部／

東京大学大学院医学系研究科疼痛・緩和病態医科学講座）

Chemist and Pharmacist／株式会社WAVE. PHARMACY. LAB／アサイクル株式会社

メディカルセミナー 14 新時代の抗がん剤開発

5月15日(日) 11:30~12:30 LIVE 会場6

座長：成田 年（星薬科大学薬理学研究室／国立がん研究センター研究所 がん患者病態生理研究分野）

演者：間野 博行（国立がん研究センター）

エーザイ株式会社

メディカルセミナー 15 「感染症コントロールの観点から薬剤師の役割を考える」

5月15日(日) 11:30~12:30 LIVE 会場7

座長：城野 博史（熊本大学病院 薬剤部）

抗菌薬の巧みな使い方

演者：松元 一明（慶應義塾大学 薬学部 薬効解析学講座）

薬剤師による抗菌薬TDMの進め方

演者：尾田 一貴（熊本大学病院 薬剤部）

株式会社日立ハイテクサイエンス／株式会社日立ハイテク

メディカルセミナー 16 外来における腎機能を考慮した医薬品適正使用を俯瞰する

5月15日(日) 11:30~12:30 LIVE 会場8

座長：竹迫 秀和（鹿児島市立病院 薬剤部 医薬品情報管理室）

演者：近藤 悠希（熊本大学大学院生命科学研究部 薬物治療設計学分野（臨床薬理学））

株式会社安全医療システム研究所

メディカルセミナー 17 薬局薬剤師が地域医療にどこまで貢献できるか!? ～地域包括ケアにおける薬剤師の在り方を考える～

5月15日(日) 11:30~12:30 LIVE 会場9

座長：木村 雅彦（あけぼのファーマシーグループ）

演者：安田 圭子（てまりグループ 株式会社スパーテル）

株式会社カケハシ

一般演題 優秀演題賞候補演題(口頭発表)

口頭発表1

5月14日(土) 13:00~14:00 LIVE 会場7

座長：石塚 洋一（熊本大学薬学部・大学院生命科学研究部 臨床薬理学分野）

優O-1 オピオイド開始時の副作用発現率と各遺伝子変異の有無における後方視的相関解析

○田中 怜^{1,2)}、佐藤 淳也^{1,3,4)}、大出 泰久¹⁾、佐藤 哲観¹⁾、盛 啓太¹⁾、
野津 昭文¹⁾、大浪 澄子⁵⁾、水口 魔己¹⁾、長嶋 剛史^{5,6)}、山口 建¹⁾

静岡県立静岡がんセンター¹⁾、東京理科大学²⁾、国際医療福祉大学附属病院³⁾、
国際医療福祉大学⁴⁾、静岡県立静岡がんセンター研究所⁵⁾、株式会社エスアールエル⁶⁾

優O-2 オキシコドンの忍容性に及ぼすポリファーマシーの影響：多施設共同後方視的観察研究

○榎原 克也^{1,2)}、山本 泰大²⁾、宮崎 雅之²⁾、高瀬 久光²⁾、田口 真穂²⁾、佐藤 淳也²⁾、
上園 保仁²⁾

淀川キリスト教病院 薬剤部¹⁾、日本緩和医療薬学会研究推進委員会²⁾

優O-3 オキサリプラチン誘発末梢神経障害に対するオメプラゾールの抑制効果

○峯 圭佑^{1,2)}、川尻 雄大¹⁾、井上 瑞季¹⁾、小林 大介¹⁾、森 皓平¹⁾、久田松韻生¹⁾、
内田まよこ³⁾、江頭 伸昭⁴⁾、小柳 悟²⁾、大戸 茂弘²⁾、島添 隆雄¹⁾

九州大学大学院 薬学研究院 臨床薬学分野¹⁾、
九州大学大学院 薬学研究院 薬剤学/グローバルヘルスケア分野²⁾、
同志社女子大学 薬学部 臨床薬学教育研究センター³⁾、九州大学病院 薬剤部⁴⁾

優O-4 ネダプラチン・5-フルオロウラシル併用療法による発熱性好中球減少症とmodified Glasgow Prognostic Scoreとの関連についての検討

○橋詰 淳哉¹⁾、南部 円香²⁾、龍 恵美²⁾、原澤 仁美²⁾、中村 忠博²⁾、兒玉 幸修²⁾

長崎大学病院 安全管理部¹⁾、長崎大学病院 薬剤部²⁾

優O-5 がん悪液質に対する集学的介入効果の検討

○守田 和憲¹⁾、森下 一樹²⁾、坪田 容子³⁾、川野 尚美⁴⁾、中村いずみ⁴⁾、市川 洋一^{1,4)}、
山下 園加^{1,3)}、山下 愛子^{1,4)}、田上 治美¹⁾、小田 尚伸^{4,5)}

済生会熊本病院 薬剤部¹⁾、済生会熊本病院 リハビリテーション部²⁾、
済生会熊本病院 がん総合支援室³⁾、済生会熊本病院 集学的治療室⁴⁾、
済生会熊本病院 総合腫瘍科⁵⁾

口頭発表2

5月14日(土) 14:00~15:00 LIVE 会場7

座長：島添 隆雄（九州大学大学院 薬学研究院 臨床薬学分野）

優O-6 竹田総合病院におけるチームアナモレリンによる悪液質対策の有用性

○香内 綾¹⁾、木本 真司¹⁾、河原 史明¹⁾、成田 浩気¹⁾、峯岸 智之¹⁾、齋藤 浩司¹⁾、
絹田 俊爾²⁾、山浦 匠³⁾、遠藤 美織⁴⁾、田中さゆり⁵⁾、佐藤 志保⁶⁾

一般財団法人竹田健康財団 竹田総合病院 薬剤科¹⁾、
一般財団法人竹田健康財団 竹田総合病院 外科²⁾、
一般財団法人竹田健康財団 山鹿クリニック 呼吸器外科³⁾、
一般財団法人竹田健康財団 竹田総合病院 栄養科⁴⁾、
一般財団法人竹田健康財団 竹田総合病院 看護部⁵⁾、
一般財団法人竹田健康財団 竹田総合病院 リハビリテーション科⁶⁾

優O-7 臨床での使用を想定した医療用麻薬注射液とドロペリドール注射液の配合変化試験

○吉田 真人、近藤 匡慶、菅谷 量俊、高瀬 久光

日本医科大学多摩永山病院

優O-8 薬剤師外来における医療用麻薬導入の可否を含めた処方前から介入することの有用性の検討

○荒川 大輔、澤 昇平、島津 晴菜、栗原 啓輔、村上是る香、古橋 侑樹、飯塚 美有、辻村 行啓、清水 真弓、山本 圭祐、矢部 勝茂

社会福祉法人聖隷福祉事業団 総合病院聖隷浜松病院 薬剤部

優O-9 インシデント・アクシデントレポートを用いた麻薬関連事例の解析

○鈴木 宣雄、宇佐美英績、神田 友江、竹中 智子、吉村 知哲

大垣市民病院 薬剤部

優O-10 ラムシルマブ、ドセタキセル併用療法を受ける非小細胞肺癌患者におけるペグフィルグラスチムの費用対効果

○近藤 有¹⁾、舘 知也²⁾、榎原 崇芳³⁾、加藤 亜季³⁾、加藤 潤³⁾、水野 貴仁³⁾、三宅 芳男³⁾、寺町ひとみ²⁾JA愛知厚生連 豊田厚生病院 薬剤部、岐阜薬科大学 病院薬学研究室¹⁾、岐阜薬科大学 病院薬学研究室²⁾、JA愛知厚生連 豊田厚生病院 薬剤部³⁾

一般演題 口頭発表

O-1 オピオイドナイブ患者に対するヒドロモルフォン経口製剤導入時の安全性に関する調査

○原 伸輔^{1,2)}、林 祐貴^{1,2)}、博多 紗綾²⁾、和田 民樹²⁾、大野由美子²⁾、西尾 敦美²⁾、林 みずほ²⁾、松田 陽一²⁾、山本 智也¹⁾、奥田 真弘¹⁾大阪大学医学部附属病院 薬剤部¹⁾、大阪大学医学部附属病院 緩和医療センター がん緩和ケアチーム²⁾

O-2 血液検査値から算出される栄養指標はオピオイド誘発性せん妄の予測に役立つ

○宮本 朋佳、富士谷昌典、木村 初、小泉 祐一

生長会 府中病院 薬剤部

O-3 意識レベルの低下により、自身で感情や苦痛を訴えられない意思疎通困難な患者に対し、痛みの症状緩和としてフェンタニル貼付剤が有用であった一症例

○上鶴 理佐¹⁾、神田 一馬¹⁾、藪上 真弓¹⁾、山本新一郎²⁾山本保健薬局 吉見店¹⁾、山本保健薬局 本店²⁾

O-4 多発性骨髄腫における高用量のヒドロモルフォン投与患者においてオピオイドスイッチング後、オピオイド離脱可能となった一例

○石澤 佑樹¹⁾、清水 忠洋¹⁾、島田 雅彦¹⁾、太田 光²⁾国家公務員共済組合連合会 三宿病院 薬剤科¹⁾、国家公務員共済組合連合会 三宿病院 血液内科²⁾

O-5 幻肢痛に対して抑肝散が著効した1例

○林 隼輔¹⁾、財満 文¹⁾、人見あずさ¹⁾、柴 さや香¹⁾、泉澤 友宏¹⁾、齋藤 高子¹⁾、蔭山 博之¹⁾、濱口 明彦²⁾、長谷川英雄¹⁾東京慈恵会医科大学附属柏病院 薬剤部¹⁾、東京慈恵会医科大学附属柏病院 腎臓・高血圧内科²⁾

- O-6 終末期緩和ケアにおける医療用麻薬使用時の下剤の使用状況について**
 ○宮崎 勝¹⁾、原田 寿²⁾
 日本調剤 横浜第二支店 藤沢薬局¹⁾、日本調剤 横浜第二支店 在宅医療部²⁾
- O-7 フェンタニル製剤における下剤の適正使用の検討**
 ○御牧夕紀子、遠矢 素子、野元 優基、東屋敷史織、東條 知子、内山ゆかり、神門 孝典
 いづろ今村病院 薬剤部
- O-8 急性期病院におけるナルデメジン導入時の他下剤併用に関する後方視的研究**
 ○竹村 美穂¹⁾、仁木 一順^{1,2)}、宮口 翔¹⁾、上田 幹子¹⁾
 大阪大学大学院 薬学研究科¹⁾、市立芦屋病院 薬剤科²⁾
- O-9 医薬品副作用データベースを用いた血液脳関門機能不全疑い患者におけるナルデメジントシル酸塩投与時の中枢性オピオイド関連事象の発現シグナル調査**
 ○岩崎 仁志^{1,2)}、田中 絢子^{1,2)}、古関 竹直¹⁾、山田 成樹^{1,2)}
 藤田医科大学医学部 臨床薬剤科¹⁾、藤田医科大学病院 薬剤部²⁾
- O-10 モルヒネによる呼吸抑制を発現した終末期がん患者1症例における腎機能の検討**
 ○上葛 義浩^{1,2,3)}、二村 昭彦^{2,3)}、臼井 正信²⁾、太田 秀基^{1,4)}、山田 成樹⁴⁾
 藤田医科大学岡崎医療センター 薬剤部 医薬品情報管理室¹⁾、
 藤田医科大学 医学部 外科・緩和医療学講座²⁾、
 藤田医科大学七栗記念病院 医療技術部 薬剤課³⁾、藤田医科大学 医学部 臨床薬剤科⁴⁾
- O-11 口腔内ヘルペス感染を併発し、治療に難渋した抗癌剤副作用による口腔内粘膜障害の1例**
 ○丸田佐知子¹⁾、仁木富美子¹⁾、高橋 侑子¹⁾、猿渡 康弘¹⁾、伊藤 由希¹⁾、寺本 拓哉¹⁾、
 水本 智子¹⁾、平井 裕子¹⁾、佐伯 泰慎²⁾、田中 明子³⁾
 大腸肛門病センター高野病院 薬局¹⁾、大腸肛門病センター高野病院 消化器外科²⁾、
 大腸肛門病センター高野病院 看護部³⁾
- O-12 脾臓がん細胞播種によるがん悪液質病態モデル動物における脾臓T細胞の疲弊化と生体脆弱性の統合的解析**
 ○渡邊 諒¹⁾、須田 雪明^{1,2)}、眞壁 一志^{1,2)}、尾関 恵海¹⁾、松山富貴子^{1,3)}、
 濱田 祐輔^{1,2)}、葛巻 直子^{1,2)}、成田 年^{1,2)}
 星薬科大学 薬理学研究室¹⁾、国立がん研究センター研究所 がん患者病態生理研究分野²⁾、
 日本小動物医療センター³⁾
- O-13 甲状腺腫瘍の気道狭窄による呼吸困難に対してヒドロモルフォンが有用であった一症例**
 ○星野 良、石原 正志、船渡 三結、後藤 咲香、小林 亮、鈴木 昭夫
 岐阜大学医学部附属病院 薬剤部
- O-14 せん妄治療におけるハロペリドール、ヒドロキシジン併用投与とハロペリドール単独投与との後方視的比較検討**
 ○佐藤 淳也^{1,2,3)}、梅田 鈴香^{1,3)}、塚越真由美^{3,4)}、田中 怜⁵⁾
 国際医療福祉大学病院 薬剤部¹⁾、国際医療福祉大学 薬学部²⁾、
 国際医療福祉大学病院 緩和ケアチーム³⁾、国際医療福祉大学病院 看護部⁴⁾、
 静岡県立静岡がんセンター 薬剤部⁵⁾

- O-15** **がん患者の呼吸困難に対するモルヒネ水（院内製剤）の有効性と忍容性**
 ○南 貴之、若月淳一郎、佐久間大樹、宮崎 弘康、佐藤 美櫻、
 松本 香織、小林 義文
 山梨県立中央病院 薬剤部
-
- O-16** **終末期がん患者のスピリチュアルペインに対する薬剤師の関わりを考えさせられた症例**
 ○江原 純也^{1,5)}、奥津 雄人¹⁾、立田 真也¹⁾、石田 耕太¹⁾、腰原麻衣子^{2,5)}、矢吹 真理^{3,5)}、
 矢野 有紀^{4,5)}、高橋 尚子⁴⁾、細谷 治¹⁾
 日本赤十字社医療センター 薬剤部¹⁾、日本赤十字社医療センター 看護部²⁾、
 日本赤十字社医療センター メンタルヘルス科³⁾、
 日本赤十字社医療センター 緩和ケア科⁴⁾、日本赤十字社医療センター 緩和ケアチーム⁵⁾
-
- O-17** **転移性脳腫瘍を合併する終末期がん患者のコントロール不良な焦燥性興奮に対しバルプロ酸Na少量投与が奏功した2例**
 ○小林 真也¹⁾、荒瀬 友子²⁾、市原 睦代³⁾、谷田 典子³⁾、近藤 彰³⁾
 医療法人若葉会 近藤内科病院 薬剤科¹⁾、医療法人若葉会 近藤内科病院 看護部²⁾、
 医療法人若葉会 近藤内科病院 緩和ケア科³⁾
-
- O-18** **在宅治療を目指し小児患者にベネトクラクスの投与に工夫をした一症例**
 ○小山佐知子¹⁾、向山 直樹¹⁾、林 博子²⁾、北澤 宏展³⁾、吉田 奈央³⁾、濱 麻人³⁾、
 水野 恵司¹⁾
 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 薬剤部¹⁾、
 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 看護部²⁾、
 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 小児科³⁾
-
- O-19** **悪性リンパ腫による全身状態悪化に伴うせん妄に対してペロスピロンが有効であった一例**
 ○谷口 結基、田中 美帆、太田 達也、田中 章郎
 社会医療法人 宏潤会 大同病院
-
- O-20** **ナルデメジンによるオピオイド離脱症候群が疑われた転移性脳腫瘍患者の1例**
 ○宇治野礼美¹⁾、満尾 明恵¹⁾、菅原 英輝¹⁾、佐々木雄一²⁾、前川 健一²⁾、佐々木裕美³⁾、
 田中 俊一⁴⁾、花谷 亮典⁴⁾、寺園 英之¹⁾、武田 泰生¹⁾
 鹿児島大学病院 薬剤部¹⁾、鹿児島大学病院 緩和ケアセンター²⁾、
 鹿児島大学病院 整形外科・リウマチ外科³⁾、鹿児島大学病院 脳神経外科⁴⁾
-
- O-21** **岐阜大学医学部附属病院における緩和領域の薬業連携構築に向けた取り組み**
 ○船渡 三結^{1,2)}、西田 浩平³⁾、石原 正志^{1,2)}、加藤 寛子¹⁾、櫻井 秀司¹⁾、丹羽今日子¹⁾、
 杉山 陽子^{2,4)}、飯原 大稔¹⁾、安田 浩二¹⁾、小林 亮¹⁾、鈴木 昭夫¹⁾
 岐阜大学医学部附属病院 薬剤部¹⁾、岐阜大学医学部附属病院 緩和ケアセンター²⁾、
 V・drug 岐阜大学病院前薬局³⁾、
 岐阜大学大学院医学系研究科 周術期女性医師活躍支援講座⁴⁾
-
- O-22** 欠番
-
- O-23** **薬局薬剤師が在宅でのオピオイドローテーションに介入することで苦痛緩和を行った症例の報告**
 ○上遠野剛司
 株式会社サノ・ファーマシー 山王薬局

0-24 デスカンファレンスにおいて見られた薬剤師の葛藤の表出

○椎崎 正秀¹⁾、原口 勝²⁾

みどりの杜病院 薬剤科¹⁾、みどりの杜病院 ホスピス緩和ケア科²⁾

0-25 当薬局におけるオピオイド使用患者へのテレフォンプォローアップの有用性

○松本 佳子

株式会社ファーコス ファーコス薬局新宿

0-26 COVID-19感染の併発がわからずに在宅療養していた肺癌末期患者との関わり

○椎名 果歩

有限会社 秩父薬剤師会調剤センター おがの薬局

0-27 がん診療に携わる医療者のケミカルコーピングに関する経験・知識・意識の調査

○藤本 愛理、中原 萌子、山中紗弥花、高武 嘉道、花田 聖典、川俣 洋生、橋本 雅司

国立病院機構 九州医療センター 薬剤部

0-28 緩和ケアを受けるがん患者に対する保険薬局薬剤師の支援の質と意識向上を目指す地域ネットワークでのアプローチ法の構築

○鷹野 理^{1,2)}、宮原富士子^{1,3)}、金子 健^{4,5)}

NPO法人 浅草かんわネットワーク研究会¹⁾、東都文京病院 薬剤科²⁾、ケイ薬局³⁾、慶應義塾大学病院 薬剤部⁴⁾、慶應義塾大学病院 緩和ケアセンター⁵⁾

0-29 千葉医療センターにおける末期心不全の呼吸困難に対するオピオイド使用成績および緩和ケアチーム介入状況に関する調査報告

○畑下 真希^{1,2)}、牧山 稔¹⁾、大塚 知信¹⁾、豊田 康義^{2,3)}、木下 康亮⁴⁾、中里 毅⁴⁾、高見 徹⁴⁾

独立行政法人国立病院機構 千葉医療センター 薬剤部¹⁾、

独立行政法人国立病院機構 千葉医療センター 緩和ケアチーム²⁾、

独立行政法人国立病院機構 千葉医療センター 外科³⁾、

独立行政法人国立病院機構 千葉医療センター 循環器内科⁴⁾

一般演題 優秀演題賞候補演題(ポスター発表)

優P-1 “睡眠リズムの乱れ”による痛みの遷延化の解析

○松浦 吉孝¹⁾、矢部 秀平¹⁾、濱田 祐輔^{1,2)}、田中 謙一¹⁾、牟田 武尊¹⁾、吉田 小莉¹⁾、
成田 道子^{2,3)}、葛巻 直子^{1,2)}、成田 年^{1,2)}

星薬科大学 薬理学研究室¹⁾、国立がん研究センター研究所 がん患者病態生理研究分野²⁾、
東京医科大学 医学総合研究所 分子細胞治療研究部門³⁾

優P-2 ナルデメジンによる免疫チェックポイント分子発現変動

○牛木 里美¹⁾、濱田 祐輔^{1,2)}、佐藤 大介¹⁾、吉田 小莉¹⁾、成田 道子^{2,3)}、須田 雪明^{1,2)}、
山内 貴靖⁴⁾、葛巻 直子^{1,2)}、成田 年^{1,2)}

星薬科大学 薬理学研究室¹⁾、国立がん研究センター研究所 がん患者病態生理研究分野²⁾、
東京医科大学 医学総合研究所 分子細胞治療研究部門³⁾、星薬科大学 合成化学研究室⁴⁾

優P-3 日本人がん疼痛患者におけるメサドン血中濃度測定による早期効果判定の可能性に関する検討

○中村 豪志^{1,2,3)}、棚田 大輔³⁾、岡村 佐紀^{1,3)}、乾 貴絵³⁾、土井 陽子³⁾、宮脇 弘樹³⁾、
廣瀬 宗孝³⁾、木村 健¹⁾、清水 忠²⁾、田中 明人²⁾、馬淵 美雪²⁾

兵庫医科大学病院 薬剤部¹⁾、兵庫医療大学 薬学部²⁾、
兵庫医科大学病院 緩和ケアセンター³⁾

優P-4 外来がん化学療法に関する薬薬連携の推進状況と要因解析

○田口 真穂、高橋 沙季、野村 風真、打田 帆志、村上 翔悟、塚野 優介、星野 匠、
宮川 和真、金田 昌之、山田 博章

横浜薬科大学 レギュラトリーサイエンス研究室

優P-5 当院における時間外麻薬払い出し業務の内容調査

○赤星 真広¹⁾、佐多 照正¹⁾、迫田 雅彦²⁾、徳重 浩一³⁾

鹿児島厚生連病院 薬剤科¹⁾、鹿児島厚生連病院 外科²⁾、鹿児島厚生連病院 消化器内科³⁾

優P-6 ヒドロモルフォンの注射剤から経口剤への換算比の検討

○傳田 容子¹⁾、金子 健^{1,2)}、袴田 潤¹⁾、古田 美佳¹⁾、坂本 麻味¹⁾、
滝澤詠美子¹⁾、伊原 奈帆²⁾、瀧野 陽子²⁾、大岸美和子²⁾、青森 達¹⁾、大谷 壽一¹⁾

慶應義塾大学病院 薬剤部¹⁾、慶應義塾大学病院 緩和ケアセンター²⁾

優P-7 COVID-19における呼吸苦に対するモルヒネ使用調査

○佐藤 弘子、辻 茉莉香、塚川麻利子、五十嵐 文、吉村 歩、高橋 賢成

横浜市民病院 薬剤部

優P-8 ブプレノルフィン貼付剤からオキシコドン製剤へ変更し疼痛が改善した1症例

○里岡 達哉、青山瑛里子、山田 直輝、大里 恭章

医療法人徳洲会 八尾徳洲会総合病院 薬剤部

優P-9 放射線治療時の体位保持困難に対する薬学的介入により症状緩和され治療可能となった症例 —悪性腸腰筋症候群に対する疼痛コントロール—

○武嶋 常^{1,2)}、斎藤 恭正^{1,2)}、野村 恭子^{1,2)}、畠山 禎¹⁾、磯部 公美^{1,2)}、
高坂 暢¹⁾、鈴木 正泰^{2,3)}、生田目英樹^{2,3)}、渡部 通章^{2,3)}、尹 志先^{2,3)}、
小高 忍^{2,4)}

厚木市立病院 薬剤部門 薬剤科¹⁾、厚木市立病院 緩和ケアチーム²⁾、
厚木市立病院 診療部門 泌尿器科 救急科 外科 麻酔科³⁾、厚木市立病院 患者支援センター⁴⁾

- 優P-10 大阪国際がんセンターにおける呼吸困難症状に対するヒドロモルフォン製剤の有効性の検討**
○奥野 亜弓、高木 麻里、迫田由佳梨、角川 幸男、藤田 敬子
地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター 薬局
- 優P-11 薬学的介入によりがん終末期の難治性せん妄による鎮静の開始を回避できた1例**
○坂野 玲子、前野 有紀、北澤 文章、佐竹 主道、辻川 正彦
JCHO星ヶ丘医療センター 薬剤部
- 優P-12 メトロニダゾールゲルの水性ゲル基剤を乳剤性基剤へ変更したことで苦痛が緩和した1症例**
○伊藤 友梨¹⁾、比留間祐介¹⁾、渡邊麻紀子²⁾
医療法人社団永生会 みなみ野病院 薬剤科¹⁾、
医療法人社団永生会 みなみ野病院 看護部²⁾
- 優P-13 ترامドールとカルバマゼピンの相互作用により、疼痛コントロールが不良となった一例**
○牧瀬 智美、小宮 孝俊、福江 弘子、石川 智子、三輪 涼子
久留米大学病院 薬剤部
- 優P-14 医療用麻薬使用患者の転院時の連携強化を目的とした医療用麻薬に関するアンケート調査**
○小倉 玲子^{1,2)}、尾形 美絵²⁾、菅田 佳子²⁾、東 千尋²⁾、磯田 祥²⁾、伊藤 洋二²⁾、
堀 美保²⁾、北 英士²⁾
大分大学医学部附属病院 薬剤部¹⁾、大分県病院薬剤師会緩和ケア委員会²⁾
- 優P-15 薬学部長期実務実習での緩和ケア実習による教育効果の検討**
○川田 哲史¹⁾、大津 友紀^{1,2)}、角 康隆¹⁾、井上 貴文¹⁾、武田 佳子¹⁾、江越 菜月¹⁾、
兼重 晋¹⁾、神村 英利^{1,2)}
福岡大学病院 薬剤部¹⁾、福岡大学 薬学部 実務薬剤学²⁾
- 優P-16 がん性疼痛コントロールにおいて、オピオイド誘発性痛覚過敏 (Opioid-induced hyperalgesia; OIH) を発症した可能性のある一症例**
○土屋 恵、松島 瑞枝
東海岸 めぐみ薬局
- 優P-17 携帯型ディスポーザブル注入ポンプの流出速度の精度調査—投与ルート設計が流出速度に与える影響について—**
○高木 知紀¹⁾、川上 真成¹⁾、山崎 悠¹⁾、岡田 寛征¹⁾、添石 遼平¹⁾、茂木 徹¹⁾、
稲葉 二郎²⁾
八王子薬剤センター薬局¹⁾、東京薬科大学²⁾
- 優P-18 終末期COVID-19患者における咳嗽・呼吸困難等の症状緩和に対するモルヒネ塩酸塩注の有効性**
○宮澤 正幸、浜田 祥之、大隅 智之、喜古 康博
藤沢市民病院 薬局
- 優P-19 緩和ケアチーム介入患者の腎機能評価と関連因子**
○前田 直大^{1,2)}、日下部鮎子^{1,2)}、長谷川むつ子²⁾、和智 純子²⁾、佐藤 秀紀³⁾
小樽市立病院 薬剤部¹⁾、小樽市立病院 緩和ケア管理室²⁾、北海道科学大学 薬学部³⁾
- 優P-20 緩和ケア病棟入院患者における潜在的な不適切処方への調査～薬剤師によるSTOPP Ver.2を用いた入院時使用薬剤の評価～**
○井上 玲香¹⁾、松井 元希¹⁾、高橋 正裕²⁾、内野奈美子³⁾、柳生 愛³⁾
姫路聖マリア病院 薬剤課¹⁾、姫路聖マリア病院 緩和ケア内科²⁾、姫路聖マリア病院 看護部³⁾

一般演題 ポスター発表

- P-1 **がん関連疲労モデルマウスに対するラフィノースの影響**
○杜 暁櫻¹⁾、原田 葵¹⁾、川上 真緒¹⁾、石嶋恵理佳¹⁾、Nurfarhana Ferdaos¹⁾、
河野 洋平²⁾、吉澤 一巳¹⁾
東京理科大学 薬学部 疾患薬理学研究室¹⁾、東京理科大学 薬学部 薬物治療学研究室²⁾
- P-2 **フェンタニルパッチからメサドンへのオピオイドスイッチングにより強い眠気、振戦が出現した一症例**
○平嶋 志穂¹⁾、山口 芽衣^{1,2)}、和田 紀子^{1,2)}、西木戸 修⁴⁾、高橋 彩子⁴⁾、飛田真砂美⁴⁾、
我妻 志保⁵⁾、日高由季菜⁶⁾、縄田 修一^{1,2)}、佐々木忠徳³⁾
昭和大学病院 薬剤部¹⁾、昭和大学 薬学部 病院薬剤学講座²⁾、昭和大学 統括薬剤部³⁾、
昭和大学病院 緩和医療科⁴⁾、昭和大学病院 看護部⁵⁾、昭和大学病院 栄養科⁶⁾
- P-3 **胃癌へのニボルマブ適応拡大前後における緩和医療とオピオイド鎮痛薬投与の経過に関する後方視的調査研究**
○荻尾夕起子^{1,2)}、豊留 麻衣^{1,2)}、池沢 若菜^{1,2)}、岸本 真¹⁾
霧島市立医師会医療センター 薬剤部¹⁾、霧島市立医師会医療センター 緩和ケアチーム²⁾
- P-4 **ナルデメジン併用によりオピオイドの鎮痛効果減弱を生じた脳転移の1例**
○番場麻菜美^{1,2)}、相内 志織^{1,2)}、廣瀬 公美²⁾、山本 章二¹⁾、的場 元弘^{2,3)}
青森県立中央病院 薬剤部¹⁾、青森県立中央病院 緩和ケアチーム²⁾、
青森県立中央病院 緩和医療科³⁾
- P-5 **臨床現場で頻用されている医療用麻薬の経管投与への適応可否に関する調査**
○岸本 真
霧島市立医師会医療センター 薬剤部
- P-6 **フェンタニルクエン酸塩錠の回数制限が患者の負担となり、オキシコドン塩酸塩水和物散へオピオイドスイッチングした一例**
○宮脇 彩¹⁾、松本 憲昭¹⁾、吉田 達司¹⁾、藤田あゆみ²⁾、杉浦 伸哉³⁾
株式会社スギ薬局 名古屋大学病院店¹⁾、株式会社スギ薬局 DI室²⁾、株式会社 スギ薬局³⁾
- P-7 **腰部脊柱管狭窄症に対しオピオイドを使用し、症状の消退に合わせてオピオイドが不要になった症例**
○高橋 伸夫¹⁾、加島 守²⁾、松浦志のぶ^{3,4)}、前田 桂吾¹⁾、川越 厚^{3,4)}
株式会社フロンティアファーマシー¹⁾、高齢者生活福祉研究所²⁾、
在宅ホスピス研究所パリアン³⁾、森の診療所⁴⁾
- P-8 **タペンタドール（600mg/日以上）投与症例の検討**
○國東 佑美、山内紗綾香、田中 雅子、沼田 範子、岸本 静佳、上田 里恵
兵庫県立がんセンター 薬剤部
- P-9 **タペンタドールの使用状況調査**
○上西真理子、梅田 勇一、皆元 文恵、金澤 康範
飯塚病院 薬剤部

- P-10 緩和ケア病棟におけるオピオイド鎮痛薬の終末期投与量と年齢、せん妄に関する調査検討**
 ○奥津 雄人¹⁾、江原 純也¹⁾、石田 耕太¹⁾、小西 治子²⁾、秋山 大²⁾、矢野 有紀²⁾、高橋 尚子²⁾、細谷 治¹⁾
 日本赤十字社医療センター 薬剤部¹⁾、日本赤十字社医療センター 緩和ケア科²⁾
- P-11 当院におけるモルヒネ塩酸塩注の腎機能低下者への使用実態の調査**
 ○浅井 澄子、伊藤 政治
 中東遠総合医療センター 薬剤部
- P-12 当院緩和ケア病棟におけるオピオイドスイッチ・投与経路変更の現状調査**
 ○船越 康太^{1,5)}、濱上 優奈¹⁾、木村 英世^{4,5)}、高浪 英樹^{2,5)}、瀧井 康^{3,5)}、後藤 渉¹⁾、石川 幹真^{2,5)}
 製鉄記念八幡病院 薬剤部¹⁾、製鉄記念八幡病院 緩和ケア外科²⁾、製鉄記念八幡病院 腫瘍内科³⁾、製鉄記念八幡病院 消化器外科⁴⁾、製鉄記念八幡病院 緩和ケアチーム⁵⁾
- P-13 ジクロフェナクナトリウム経皮吸収型製剤の使用状況と有効性の検討**
 ○内藤 陽子、永田 圭耶、岡本亜耶乃、北村和香子、宮崎 信子、高橋 慧
 医療法人社団 杏順会 越川病院 薬剤部
- P-14 当院におけるジクロフェナクナトリウム経皮吸収型製剤の使用後調査**
 ○小島 佑太¹⁾、小笠原和宏²⁾、小田 浩之³⁾、門脇 郁美⁴⁾
 釧路労災病院 薬剤部¹⁾、釧路労災病院 外科²⁾、釧路労災病院 緩和ケア内科³⁾、釧路労災病院 看護部⁴⁾
- P-15 相良病院におけるジクトルテープの処方状況と有用性**
 ○川床 優子、尾辻 敬子、枚田 明、前田加奈子、岩元富有子、新上香奈子、永田 春香、上田 聖子、柿本 智広
 社会医療法人博愛会 相良病院 薬剤部
- P-16 メサドン錠の簡易懸濁法に関する院内運用ルールを策定し経管投与を行った1例**
 ○宮沢 祐太¹⁾、菊田 奨之¹⁾、須田 奈美¹⁾、加藤潤一郎¹⁾、塩田 祐子²⁾、川久保 孝¹⁾
 東京慈恵会医科大学附属病院 薬剤部¹⁾、東京慈恵会医科大学附属病院 緩和ケア診療部²⁾
- P-17 経口ヒドロモルフォン徐放製剤の使用状況調査**
 ○中原 萌子、高武 嘉道、藤本 愛理、花田 聖典、川俣 洋生、橋本 雅司
 独立行政法人国立病院機構 九州医療センター 薬剤部
- P-18 ナルデメジン併用患者におけるオピオイド製剤の使用量調査**
 ○慶 元箕^{1,2)}、周治由香里^{1,2)}、伊東 俊雅^{1,2)}
 東京女子医科大学附属足立医療センター¹⁾、がん包括診療部 緩和ケア室²⁾
- P-19 ケミカルコーピング疑いの肝細胞がん患者に多職種が関わり、適切なオピオイド鎮痛薬の使用が行われた1症例**
 ○齋田 和江¹⁾、新行内 亮¹⁾、小林茉奈美¹⁾、福澤 悦子¹⁾、橋本かよ子²⁾、石塚 裕子²⁾、小池 瞬²⁾、相川 祐貴³⁾
 公立富岡総合病院 薬剤部¹⁾、公立富岡総合病院 看護部²⁾、静岡県立静岡がんセンター 薬剤部³⁾

- P-20 強オピオイド開始時の適正な薬剤選択に向けた実態調査**
-
- 上谷 幸男¹⁾、坂田 徳子¹⁾、政田 一樹¹⁾、渡邊 享平²⁾、古俵 孝明¹⁾、塚本 仁¹⁾、
廣野 靖夫³⁾、後藤 伸之¹⁾
福井大学 医学部 附属病院¹⁾、福井大学 医学部 附属病院 医学研究支援センター²⁾、
福井大学 医学部 附属病院 がん診療推進センター³⁾
- P-21 ヒドロモルフォンの鎮痛耐性形成が疑われた患者に対し、モルヒネへのオピオイドスイッチングが有効であった一症例**
-
- 加藤あゆみ
日本医科大学付属病院 薬剤部
- P-22 メサドンからモルヒネ注にスイッチングして過量が疑われた1症例**
-
- 牧浦 耕平、森田 淳子
地方独立行政法人 奈良県立病院機構 奈良県総合医療センター薬剤部
- P-23 緩和ケアにおけるオピオイドスイッチングの実際**
-
- 坂東 慶希¹⁾、中川 左理^{1,2)}、田中 育子²⁾、橋本 百世²⁾、岡本 禎晃²⁾
神戸学院大学 薬学部¹⁾、市立芦屋病院 薬剤科²⁾
- P-24 メサドンスイッチング症例の検討**
-
- 吉岡 薫¹⁾、君島 亨¹⁾、岡澤林太郎²⁾、本谷 倫子¹⁾、高岩 徹幸¹⁾
市立釧路総合病院 薬剤部¹⁾、市立釧路総合病院 緩和ケア科²⁾
- P-25 ヒドロモルフォン注射剤から他の強オピオイド鎮痛剤へスイッチングした2症例**
-
- 黒木 吟美、松下 尚弘、古賀 清弘、田中早穂子、石丸 隆之、野中 敏治
国家公務員共済組合連合会 浜の町病院 薬剤部
- P-26 当院におけるオピオイドナীব患者への癌性疼痛に対するフェントステープ®[®]についての検討**
-
- 大久保達也
荒尾市民病院 診療技術部 薬剤科
- P-27 フェンタニル貼付製剤からモルヒネ注へのオピオイドスイッチングについて
～当院で経験した換算に考慮した2症例～**
-
- 田中 諒¹⁾、草積里恵子¹⁾、長嶋 由美²⁾、吉村美沙希¹⁾、米崎 高浩¹⁾、山下 貴大¹⁾
一般社団法人天草郡市医師会立天草地域医療センター 薬剤部¹⁾、
一般社団法人天草郡市医師会立天草地域医療センター 看護部²⁾
- P-28 がん性疼痛患者に対する経口ケタミンの有用性**
-
- 姜 元美¹⁾、小林 慎²⁾、秋山 幸子¹⁾、奥津 輝男³⁾、国分 秀也²⁾
医療法人社団三喜会 鶴巻温泉病院 薬剤科¹⁾、東京薬科大学 薬学部²⁾、
医療法人社団三喜会 鶴巻温泉病院 診療部³⁾
- P-29 がんに伴う神経障害性疼痛に対するバルプロ酸ナトリウムの治療効果に関する検討**
-
- 周治由香里^{1,2)}、慶 元箕^{1,2)}、伊東 俊雅^{1,2)}
東京女子医科大学附属足立医療センター 薬剤部¹⁾、
東京女子医科大学附属足立医療センター がん包括診療部 緩和ケア室²⁾

- P-30 鎮痛剤を服用しないで疼痛コントロールできた1症例
～精神科病院に入院した乳がん患者との関わり～
○加藤 剛^{1,2)}、三原 郁子²⁾、栗原 和博²⁾、松本 有希²⁾、鈴木 順子³⁾
所沢慈光病院薬剤部¹⁾、逸見病院薬剤部²⁾、北里大学薬学部³⁾
-
- P-31 当院緩和ケア病棟におけるジクロフェナクナトリウム経皮吸収型製剤の使用調査
○佐藤 良太¹⁾、山口 剛史²⁾、崎元 雄彦²⁾
丸木記念福祉メディカルセンター 薬局¹⁾、
丸木記念福祉メディカルセンター 緩和ケア内科²⁾
-
- P-32 1日型フェンタニル貼付剤0.5mgの使用状況調査と課題の検討
○宇野 健一、天間 歩、小嶋 啓修
岩見沢市立総合病院 薬剤部
-
- P-33 モルヒネからヒドロモルフォンへオピオイドスイッチングし傾眠が改善した一例
○山口 芽衣^{1,2)}、平嶋 志穂¹⁾、和田 紀子^{1,2)}、西木戸 修³⁾、高橋 彩子³⁾、飛田真砂美³⁾、
我妻 志保⁴⁾、日高由季菜⁵⁾、岡本健一郎³⁾、縄田 修一^{1,2)}、佐々木忠徳^{1,6)}
昭和大学病院 薬剤部¹⁾、昭和大学薬学部 病院薬剤学講座²⁾、
昭和大学病院 緩和医療科³⁾、昭和大学病院 看護部⁴⁾、昭和大学病院 栄養科⁵⁾、
昭和大学 統括薬剤部⁶⁾
-
- P-34 トルソー症候群による視床痛に鎮痛補助剤とフェンタニルクエン酸テープを併用することにより疼痛が改善した一例
○鈴木久美子^{1,2)}、山中 恵^{2,4)}、横田 崇^{2,3)}
医療法人社団慶友会 吉田病院 薬剤課¹⁾、
医療法人社団慶友会 吉田病院 緩和ケアチーム ほほえみ²⁾、
医療法人社団慶友会 吉田病院 内科³⁾、医療法人社団慶友会 吉田病院 看護部⁴⁾
-
- P-35 オキシコドン持続皮下注からフェンタニル貼付剤へのスイッチングの際に退薬症状がみられた1例
○原田奈津子、城 亜希、堀 泰祐
社会医療法人 誠光会 淡海医療センター 緩和ケアチーム
-
- P-36 肺扁平上皮がん・膀胱浸潤の尿道カテーテル関連不快感・疼痛に対し、ミルタザピンが有効であった1例
○杉本 智哉¹⁾、桜井 陽平¹⁾、杉野 晃希¹⁾、小原 里奈¹⁾、奥村 隼也²⁾、遠山 幸男¹⁾、
久田 達也¹⁾
トヨタ記念病院 薬剤科¹⁾、トヨタ記念病院 呼吸器内科²⁾
-
- P-37 高用量アセトアミノフェン併用によりワルファリンの作用増強をきたした1例
○山根理恵子¹⁾、佐道 紳一¹⁾、岩村 直矢¹⁾、森 善洋¹⁾、樋口 則英¹⁾、一瀬 浩郎²⁾
長崎みなとメディカルセンター 薬剤部¹⁾、長崎みなとメディカルセンター 緩和ケア科²⁾
-
- P-38 免疫チェックポイント阻害剤 (ICI) 使用患者のオピオイド鎮痛薬による鎮痛耐性発現に関する検討
○伊東 俊雅^{1,2)}、慶 元箕^{1,2)}、周治由香里^{1,2)}
東京女子医科大学附属足立医療センター 薬剤部¹⁾、
東京女子医科大学附属足立医療センター がん包括診療部 緩和ケア室²⁾

- P-39 短腸症候群を生じた子宮頸癌患者の難治性疼痛に対して、ベタメタゾンの経口投与でコントロール可能であった1症例
○米澤 亮¹⁾、古川 卓也¹⁾、鴻池 紗耶²⁾、丸山 晴生¹⁾
長野市民病院 薬剤部¹⁾、長野市民病院 緩和ケア内科²⁾
-
- P-40 ニボルマブ投与後にオピオイド製剤による疼痛コントロールが不良となった1症例
○炭本 隆宏、田中 遼大、龍田 涼佑、伊東 弘樹
大分大学医学部附属病院 薬剤部
-
- P-41 大阪赤十字病院における10年間の医療用麻薬処方動向
○福島 智子^{1,2)}、谷 大輔^{1,2)}、田村 訓子^{1,2)}、鳥井 祥子^{1,2)}、瀬名波暢子^{1,2)}、
小木曾照子^{1,2,3)}、金村 由華³⁾、濱田 美加³⁾、松浦麻由美³⁾、
端 裕之²⁾、小林 政彦¹⁾
大阪赤十字病院 薬剤部¹⁾、同 緩和ケアチーム²⁾、同 看護部³⁾
-
- P-42 当院における低用量フェンタニル貼付剤の使用状況の検討
○小林麻衣子^{1,2)}、細井 尚人²⁾、安藤 千聡¹⁾、松山 昌子²⁾、長田 玲美²⁾、牧野 光子²⁾、
森田あゆ美²⁾
社会医療法人社団さつき会 袖ヶ浦さつき台病院 薬剤部¹⁾、
社会医療法人社団さつき会 袖ヶ浦さつき台病院 緩和ケアチーム²⁾
-
- P-43 緩和ケアチームの活動に関連した強オピオイド鎮痛薬の使用実態調査
○糸山佳奈子、坂口 結斗、宮川 千珠、喜多 洋嗣
医療法人徳洲会 中部徳洲会病院 薬剤部
-
- P-44 緩和ケアチーム薬剤師によるがん疼痛の適正な管理に向けた取り組み
○堀越久仁恵^{1,2)}、藤崎 智子^{1,2)}、豊田 真史^{1,2)}、山崎 智世¹⁾、新沼 恵²⁾、小高 ふみ²⁾、
山田 陽介²⁾、深野 光司¹⁾
公益財団法人東京都保健医療公社 豊島病院 薬剤科¹⁾、
公益財団法人東京都保健医療公社 豊島病院 緩和ケアチーム²⁾
-
- P-45 オキシコドンによる喘息様発作を発症した患者に対してオピオイド鎮痛薬の選択に介入した1例
○財満 文¹⁾、人見あずさ¹⁾、柴 さや香¹⁾、泉澤 友宏¹⁾、林 隼輔¹⁾、齋藤 高子¹⁾、
蔭山 博之¹⁾、濱口 明彦²⁾、長谷川英雄¹⁾
東京慈恵会医科大学附属柏病院 薬剤部¹⁾、
東京慈恵会医科大学附属柏病院 腎臓・高血圧内科²⁾
-
- P-46 終末期がん患者に対するジクロフェナクナトリウム経皮吸収型製剤貼付に伴う熱型の変化
○嶽小原 恵¹⁾、松野 優紀¹⁾、折笠 瞬¹⁾、池永 昌之²⁾
淀川キリスト教病院 薬剤部¹⁾、淀川キリスト教病院 緩和医療内科²⁾
-
- P-47 末期心不全患者に対するモルヒネ塩酸塩注のプロトコル作成前後の使用状況
○稲葉 史恵¹⁾、榊原 洋一¹⁾、平野 貴志¹⁾、吉川 直利¹⁾、加藤 遥¹⁾、鈴木 進²⁾、
横田 学¹⁾
半田市立半田病院 薬剤科¹⁾、半田市立半田病院 循環器内科²⁾
-
- P-48 オキシコドン徐放錠からフェンタニルクエン酸塩1日用テープへオピオイドスイッチングを施行し吐き気が改善した一例
○山口 嘉夫¹⁾、田中かおり¹⁾、味澤 大輔¹⁾、石井 雅雄¹⁾、鬼澤 信之²⁾
加藤薬局 笹井店¹⁾、医療法人あんず会 杏クリニック²⁾

- P-49** 薬剤性肝障害治療在宅患者において、ステロイド薬減量によりQOL改善へ向かった一例
 ○味澤 大輔¹⁾、田中かおり¹⁾、山口 嘉夫¹⁾、石井 雅雄¹⁾、鬼澤 信之²⁾
 加藤薬局 笹井店¹⁾、医療法人あんず会 杏クリニック²⁾
- P-50** NSAIDs貼付剤と内服薬の血中濃度比較
 ○吉村 光弘¹⁾、木村 圭輔²⁾、二村 直行³⁾、北谷 和之⁴⁾
 調剤薬局マリーン マキノ病院前店¹⁾、さかのいち調剤薬局²⁾、くるみ薬局2号店³⁾、
 摂南大学⁴⁾
- P-51** フェンタニル貼布剤の適正に使用について考える
 ～当院における初回強オピオイドの処方状況を踏まえて～
 ○竹野 孝慶
 社会福祉法人 新潟市社会事業協会 信楽園病院
- P-52** 演題取り下げ
- P-53** 神経障害性疼痛にアセトアミノフェン注射薬が奏功した1症例
 ○岩田 佳之、川島美智子
 地方独立行政法人総合病院国保旭中央病院 薬剤局
- P-54** 当院におけるメサドンの使用状況
 ○井上 知哉¹⁾、藤田 靖之¹⁾、原田 周平¹⁾、入江 貞治¹⁾、池上 沙織¹⁾、馬場 麗名¹⁾、
 駒木真理子¹⁾、原口 智彦¹⁾、池田能利子¹⁾、後藤 慎一²⁾
 日本赤十字社 長崎原爆病院 薬剤部¹⁾、日本赤十字社 長崎原爆病院 緩和ケア内科²⁾
- P-55** 片側性発汗障害の主訴から胸椎転移を推測し診断に至ったすい臓がんの一例
 ○重見 貴子¹⁾、今田 肇²⁾、森 康弘³⁾
 共愛会戸畑共立病院 薬剤部（現所属は九州労災病院薬剤部）¹⁾、
 共愛会戸畑共立病院 がん治療センター²⁾、共愛会戸畑共立病院 薬剤部³⁾
- P-56** 薬剤師の疼痛アセスメントを契機に頸椎転移を発見し、治療に繋げることができた1症例
 ○杉田 英章¹⁾、三ツ橋千尋¹⁾、塩澤 亮太¹⁾、仙波 秀彦¹⁾、柳田 絢子¹⁾、三宮 忠¹⁾、
 松島 佳子²⁾、下田 純子²⁾、鍵山 奈保³⁾
 埼玉県立循環器・呼吸器病センター 薬剤部¹⁾、
 埼玉県立循環器・呼吸器病センター 看護部²⁾、
 埼玉県立循環器・呼吸器病センター 呼吸器内科³⁾
- P-57** がん緩和ケア患者への疼痛を中心とした薬剤師の関わり
 ○堀 敦雄、森田華奈子、田中 智子、吉田 紀子
 長浜赤十字病院

- P-58** 理学療法士と薬剤師が連携し、ケミカルコーピングが疑われる患者に対し、McGill疼痛質問表を用いたアセスメントにより不適切なオピオイド使用を回避できた一症例
-
- 畑瀬 圭佐^{1,3)}、有富 航平^{1,3)}、秋月 大成²⁾
- 地方独立行政法人大牟田市立病院 薬剤部¹⁾、
地方独立行政法人大牟田市立病院 リハビリテーション科²⁾、
地方独立行政法人大牟田市立病院 緩和ケアチーム³⁾
- P-59** 終末期に薬剤を変更し、外泊して講演会が行えた1例
-
- 藤村 昭太¹⁾、荒川 昌史¹⁾、今井 靖^{1,2)}
- 自治医科大学附属病院 薬剤部¹⁾、自治医科大学 医学部 薬理学講座臨床薬理学部門²⁾
- P-60** がん患者における神経障害性疼痛に対するデュロキセチンの安全性に関するメタ解析
-
- 宮田 祥一¹⁾、平井 利典²⁾、小川ゆかり³⁾、柳野紗智子¹⁾、山田早百合¹⁾、坂本 真紀¹⁾、
西澤 健司¹⁾、松本 高広¹⁾
- 東邦大学医療センター大森病院 薬剤部¹⁾、三重大学医学部附属病院 薬剤部²⁾、
武蔵野大学 薬学部 臨床薬学センター³⁾
- P-61** ナルデメジンの有効性と予後予測ツールで評価した全身状態との関係
-
- 滝澤詠美子¹⁾、金子 健^{1,2)}、坂本 麻味¹⁾、袴田 潤¹⁾、傳田 容子¹⁾、伊原 奈帆²⁾、
瀧野 陽子²⁾、大岸美和子²⁾、青森 達¹⁾、大谷 壽一¹⁾、竹内 麻理²⁾
- 慶應義塾大学病院 薬剤部¹⁾、慶應義塾大学病院 緩和ケアセンター²⁾
- P-62** 当院入院中に緩和ケアチームの提案でポリエチレングリコール製剤（モビコール®配合内用剤）が開始されたオピオイド投与患者の排便状況に関する後方視的調査
-
- 阿部美佐緒^{1,2,3)}、村上 祥子^{1,2,4)}、小野 早代^{1,4)}、茂木香奈子^{1,2,5)}、橋爪 英二^{1,2,6)}
- 地方独立行政法人 山形県・酒田市病院機構 日本海総合病院¹⁾、
がん診療サポートチーム²⁾、薬剤部³⁾、看護部⁴⁾、栄養管理室⁵⁾、外科⁶⁾
- P-63** ナルデメジンの使用実態調査
-
- 西崎百合恵、高橋 篤、岸本 有佳
- 神奈川県立がんセンター 薬剤科
- P-64** オキシコドン徐放性製剤を減量中の退薬症候と両立支援について考える
-
- 菊地 義明、鈴木 直哉、山本 翔太、田中 耕太、橋本 咲季、菊地 亮朗、朝倉 幹己、
藤田 果那、庄崎 沙耶、山田 将梧、前川 英輝
- 北海道消化器科病院 薬剤部
- P-65** フェンタニルのオーバードーズによる呼吸抑制を在宅で発見した一症例
-
- 竹下 葉子¹⁾、杉浦 知佳²⁾、福山友里恵³⁾、細川 泰博⁴⁾
- さくら薬局 豊中新千里南店¹⁾、大阪神山さくら薬局²⁾、さくら薬局 大阪南加賀屋店³⁾、
クラフト本社株式会社教育企画部⁴⁾
- P-66** 在宅療養中にオキシコドン持続皮下注射で呼吸抑制を来した1例
-
- 天方 奉子、沼田 朋和、稲葉 一郎
- 株式会社ハートフェルト 薬局セントラルファーマシー長嶺
- P-67** オピオイド鎮痛薬使用患者におけるナルデメジン開始時期と下痢の発現に関する後方視的検討
-
- 松本 拓真、武良 卓哉、西本 凜、濱岡 照隆、升味 紀子、相良 義弘
- 独立行政法人国立病院機構 岩国医療センター 薬剤部

- P-68 比較的低用量のオキシコドン注を使用中に呼吸抑制を起こした一症例
 ○樋川 雄一¹⁾、進藤百合子²⁾、横山 忍³⁾、工藤 敦¹⁾、鹿嶋真紀子¹⁾、柝窪 克行¹⁾
 公益財団法人 仙台市医療センター 仙台オープン病院 薬剤部¹⁾、
 公益財団法人 仙台市医療センター 仙台オープン病院 緩和医療科²⁾、
 公益財団法人 仙台市医療センター 仙台オープン病院 看護部³⁾
- P-69 薬局薬剤師による癌性疼痛患者様へのテレフォンプォローの重要性を実感した一例
 ○高山 友子
 日本調剤 近江八幡薬局
- P-70 当院におけるオピオイド誘発便秘に対するナルデメジントシル酸塩の使用症例調査
 ○水本 智子、仁木富美子、高橋 侑子、猿渡 康弘、伊藤 由希、寺本 拓哉、丸田佐知子、
 平井 裕子
 大腸肛門病センター高野病院 薬局
- P-71 緩和医療領域におけるせん妄誘発要因の関連性に関する調査・研究（第5報）緩和ケア病棟入院時持参薬と入院後のポリファーマシーとせん妄との関連性について
 ○野澤（石井） 玲子¹⁾、相沢 健太¹⁾、菅野 智²⁾、荒井 進³⁾、稲葉 裕⁴⁾、
 加賀谷 肇⁵⁾
 明治薬科大学 臨床神経薬理学研究室¹⁾、救世軍清瀬病院 薬剤科²⁾、
 救世軍清瀬病院 緩和ケア内科³⁾、救世軍清瀬病院 内科⁴⁾、湘南医療大学 薬学部⁵⁾
- P-72 社会保険レセプトデータを用いた就労年齢がん患者を対象としたフェンタニル貼付剤使用時における発熱のリスク因子の探索
 ○大戸 祐治^{1,2)}、百 賢二²⁾、内倉 健²⁾、田中 克巳^{1,2)}、佐々木忠徳³⁾
 昭和大学江東豊洲病院 薬剤部¹⁾、昭和大学 薬学部 病院薬剤学講座²⁾、
 昭和大学病院 薬剤部³⁾
- P-73 癌化学療法誘発性悪心嘔吐に対する低用量オランザピンの使用実態調査
 ○中尾 圭裕、空田 洋祐、岡 智之、山崎 博史
 宇部興産中央病院
- P-74 がん緩和ケアにおけるヒドロキシジンパモ酸塩の悪心嘔吐に対する効果
 ～吐き気の原因を症例から評価する～
 ○枝廣 茂樹、松波 寿雄、大川 浩子
 金沢赤十字病院薬剤部
- P-75 当院における中等度催吐性リスク抗がん薬(MEC)に対するSteroid Sparingの悪心・嘔吐(CINV)・食欲不振・倦怠感への影響調査報告
 ○山本麻千子
 医療法人財団 健和会 みさと健和病院
- P-76 大腸癌FOLFIRI+Bevacizumab療法におけるコリン様症状がブチルスコポラミン臭化物注射液の投与で著明に改善した1症例
 ○田中 康裕¹⁾、西 直人²⁾、鈴木 勝弘³⁾
 医療法人 輝山会 輝山会記念病院 薬剤部¹⁾、
 社会医療法人社団 慈生会 等潤病院 外科²⁾、
 社会医療法人社団 慈生会 等潤病院 薬剤科³⁾

- P-77 オシメルチニブによる治療を支えるための効果的な介入方法の検討
○大畑 茂樹
藤枝市立総合病院 薬剤部
-
- P-78 乳がん患者のドセタキセル投与による口内炎に対する半夏瀉心湯の効果
○倉橋 基尚、藤本 冬佳、土谷 裕貴、森田 龍也、廣瀬 薫、藤本 冴香、是枝 哲平、
ト部 和美
国家公務員共済組合連合会 大手前病院
-
- P-79 SOX療法による末梢神経障害による不安に対し、テレフォンフォローアップを行い不安軽減、レジメン変更につながった1症例
○羽鳥 良
日本調剤 旗の台薬局
-
- P-80 パクリタキセルのアルコールに対して過敏反応が発現した婦人科がん患者に対してパクリタキセルの再投与に成功した1症例
○鈴木 聖、水川 奈己、磯部 芳江、水岡 大策、山口佳津騎、田中 裕章、小坂 信二
香川大学 医学部 附属病院 薬剤部
-
- P-81 男性における薬剤性吃逆の発症と関連する化学構造探索 ～副作用データベースFAERSを用いた機械学習モデル構築～
○細谷龍一郎^{1,2)}、黒崎 宏太¹⁾、野澤 (石井) 玲子³⁾、植沢 芳広¹⁾
明治薬科大学 医療分子解析学研究室¹⁾、武蔵野赤十字病院 薬剤部²⁾、
明治薬科大学 総合臨床薬学教育研究講座 臨床神経薬理学研究室³⁾
-
- P-82 岐阜県総合医療センターにおけるアナモレリン塩酸塩錠の副作用発現状況調査
○臼井 哲宏、土井田 愛、関谷 泰明、井上 壽江、平下 智之
岐阜県総合医療センター 薬剤部
-
- P-83 アナモレリン投与前基準の分析と投与後評価
○網野 一真、赤坂 知香、三沢あずさ、宮崎 若菜、湯澤 桃圭、田中 李奈、登内 盛治
諏訪赤十字病院 薬剤部
-
- P-84 当院におけるアナモレリンの使用実態調査
○前田 和輝、橋本 達哉、辰 美佳、岡野 新、前田真由子、上り口 誠、太田あづさ、
河原 香織、佐倉小百合、辻本 純子
兵庫県立尼崎総合医療センター 薬剤部
-
- P-85 経口不可の終末期せん妄に対してアセナピンマレイン酸塩舌下錠の投与が有効であった1症例
○山田 憲和¹⁾、山村かほり²⁾、藤田真希子²⁾、杉坂 夏子³⁾、佐々木 久⁴⁾
福井厚生病院 薬剤課¹⁾、福井厚生病院 看護部²⁾、福井厚生病院 精神科³⁾、
福井厚生病院 消化器・一般外科⁴⁾
-
- P-86 悪性リンパ腫の終末期せん妄に対してプロナンセリンテープを使用した1例
○鈴木 訓史^{1,2)}、小野あゆみ^{1,2)}、高橋 紀子²⁾、内藤 義博¹⁾、田島つかさ²⁾、高橋 通規²⁾
国立病院機構仙台医療センター 薬剤部¹⁾、
国立病院機構仙台医療センター 緩和ケアチーム²⁾

- P-87 緩和ケアチーム介入患者におけるレンボレキサントの使用実態調査**
 ○今中 智子、鈴木佳寿子
 社会福祉法人 聖母会 聖母病院
-
- P-88 進行がんにおける治療抵抗性悪心嘔吐を、低用量レボメプロマジン（内服から持続皮下注へ）主軸とした系統的ケアで軽減でき看取りまでコントロールできた1例**
 ○久田 純生¹⁾、吉本 鉄介²⁾、長谷川 泉³⁾、江口 真澄²⁾
 地域医療機能推進機構 中京病院 薬剤部、緩和ケアチーム¹⁾、
 地域医療機能推進機構 中京病院 緩和ケアチーム²⁾、
 地域医療機能推進機構 中京病院 消化器内科³⁾
-
- P-89 緩和ケア病棟における高Ca血症の治療経験からの考察**
 ○長谷部千夏、渡邊 裕斗、兼松 友紀、塚原 民夫
 岐阜県立多治見病院 薬剤部
-
- P-90 伊勢赤十字病院でせん妄スクリーニングツール(Delirium Screening Tool)陽性患者におけるレンボレキサントの有用性についての検討**
 ○世古口拓也、奥村 蒔子、三宅 知宏、谷村 学
 伊勢赤十字病院
-
- P-91 緩和ケア病棟における抗菌薬使用状況**
 ○村上とよみ
 耳原総合病院 薬剤科
-
- P-92 終末期患者における苦痛緩和目的のミダゾラム投与量に影響する因子の検討**
 ○山下 園加、守田 和憲、北岡 朋子、市川 洋一、山下 愛子、田上 治美
 済生会熊本病院 薬剤部
-
- P-93 緩和ケア病棟における皮下投与の実施状況**
 ○長尾 由佳¹⁾、山田 菜月¹⁾、西田 麻以¹⁾、赤木 晋介¹⁾、高柳 和伸¹⁾、佐野 薫²⁾
 倉敷中央病院 薬剤部¹⁾、倉敷中央病院 緩和ケア科²⁾
-
- P-94 Follow-up cachexiaが膀胱がん患者におけるmFOLFIRINOXの継続に及ぼす影響**
 ○内山 将伸¹⁾、松尾 宏一¹⁾、宮崎 元康¹⁾、高木 聡子¹⁾、柿本 秀樹²⁾、五十嵐保陽²⁾、
 井上 貴文²⁾、神村 英利²⁾、今給黎 修²⁾
 福岡大学筑紫病院 薬剤部¹⁾、福岡大学病院 薬剤部²⁾
-
- P-95 出血を伴う皮膚潰瘍に継続的に関わった、乳がんの1症例**
 ○尾形 美絵、近藤 和宏、羽生 智宏、新関みどり、長澤 欣弘、瀧内 瑛輔、中村槇一郎、
 田村 和彦
 大分県済生会日田病院 薬剤部
-
- P-96 当院緩和ケア病棟における終末期がん患者の治療抵抗性の苦痛に対する鎮静の施行状況調査～適正な鎮静を目指して～**
 ○宮武 望¹⁾、長谷川喜一^{1,2)}、岡田芙美子^{1,3)}、野田 順子³⁾、岡野 直美³⁾、岩谷理佳子^{1,3)}、
 佃 博^{1,2)}
 和泉市立総合医療センター 緩和ケアチーム¹⁾、和泉市立総合医療センター 腫瘍内科²⁾、
 和泉市立総合医療センター 看護部³⁾

- P-97 手術が適応となる乳がん患者における向精神薬の処方実態調査**
 ○星 茜^{1,2)}、百 賢二^{1,3)}、佐々木忠徳^{2,3)}
 昭和大学 薬学部 病院薬剤学講座¹⁾、昭和大学病院 薬剤部²⁾、昭和大学 統括薬剤部³⁾
- P-98 当センターでの非小細胞肺癌・胃癌患者におけるアナモレリンの有効性と安全性に関する調査**
 ○目堅 詩乃¹⁾、山東真寿美¹⁾、内田 純二²⁾、川本 良子³⁾、植田 有希¹⁾、口分田章典¹⁾、
 竹田 健志¹⁾、坂上 嘉浩¹⁾、吉田 洋⁴⁾
 地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪急性期・総合医療センター 薬局¹⁾、
 地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪急性期・総合医療センター 呼吸器内科²⁾、
 地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪急性期・総合医療センター 看護部³⁾、
 地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪急性期・総合医療センター 緩和ケア科⁴⁾
- P-99 がん悪液質患者にアナモレリンが著効し抗がん剤治療を継続できた1症例**
 ○市川 祥子、花井 茜、木村 有揮、龍島 靖明、宮下 久徳、白川 貴大
 独立行政法人 国立病院機構 埼玉病院
- P-100 外来通院のみで標準化学療法無効の患者に対し、BSC移行と強オピオイド、アナモレリン導入を薬剤師が提案し、QOL改善に貢献した一症例**
 ○柘植 友考
 名鉄病院 薬剤部
- P-101 アナモレリン塩酸塩の使用実態調査**
 ○森 祥史、三森 美佳、高谷 伸治、米澤 奈邦、中右 葵、菊井 利伸
 医療法人明和病院
- P-102 アナモレリン塩酸塩錠の使用実態調査**
 ○荒神 一博、和田 翼、向井 直子、生田 智基、武智 宣佳、小池 恭正
 独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター 薬剤部
- P-103 新型コロナウイルス感染症による医薬品供給不足のため鎮静薬の変更を行った一例**
 ○小野瀬祐次¹⁾、内田 智夫²⁾、田中 芳浩¹⁾
 水戸赤十字病院 薬剤部¹⁾、水戸赤十字病院 緩和ケア内科²⁾
- P-104 呼吸困難に対する経口ヒドロモルフォン製剤の使用状況と有効性の評価**
 ○平野 貴志、加藤 遥、稲葉 史恵、吉川 直利、横田 学
 半田市立半田病院 薬剤科
- P-105 がんによる神経障害性疼痛に対するオキシコドン、プレガバリン、およびタペンタドールの有効性と安全性の比較**
 ○高科 嘉章、伊藤 智子、寺田 操、石塚 雅人、中道 秀徳
 社会福祉法人 聖隷福祉事業団 総合病院 聖隷三方原病院 薬剤部
- P-106 呼吸困難感に伴う精神症状とアカシジアの判別が困難であった肺原発多形癌の一症例**
 ○田村 有美^{1,2)}、大川 裕子^{1,2)}、澤井 麻記^{1,2)}、岩根 裕紀^{1,2)}、福島 文子²⁾、伊佐 将人²⁾、
 清水 正樹²⁾、土手 賢史¹⁾、小林 由佳¹⁾
 社会福祉法人京都社会事業財団 京都桂病院 薬剤科¹⁾、同 緩和ケアチーム²⁾

P-107 終末期がん患者の悪心・嘔吐に対しセナピン舌下錠を投与した2例

○伏見久美子¹⁾、小森 桂子¹⁾、富井 真一¹⁾、藤澤なすか²⁾、中部 奈美²⁾、土谷 有美¹⁾、
上田 和茂²⁾

京都第一赤十字病院 薬剤部¹⁾、京都第一赤十字病院 緩和ケア内科²⁾

P-108 当院における呼吸困難感に対するヒドロモルフォン注の使用実態調査

○小澤 智美¹⁾、澤辺 由美¹⁾、渡邊 弘祐¹⁾、小原 春菜¹⁾、小西 愛子¹⁾、宮田 千明¹⁾、
佐藤 大輔¹⁾、佐野 広美²⁾、雪田 慎二²⁾

埼玉協同病院 薬剤科¹⁾、埼玉協同病院 緩和ケア内科²⁾

P-109 当院におけるアナモレリン塩酸塩の使用状況について

○田代 聡美¹⁾、川野 昭¹⁾、山崎 章生²⁾、藤永理恵子¹⁾

福岡赤十字病院 薬剤部¹⁾、福岡赤十字病院 外科²⁾

P-110 アナモレリン塩酸塩錠の使用状況と薬剤師介入の必要性

○大迫 絢加^{1,3)}、前田 弘志^{1,3)}、竹迫 秀和^{1,3)}、川平 正博^{2,3)}、堀 剛³⁾、
有馬 純子¹⁾

鹿児島市立病院 薬剤部¹⁾、鹿児島市立病院 腫瘍内科²⁾、
鹿児島市立病院 緩和ケアチーム³⁾

P-111 内服困難な嘔気・嘔吐に対しプロナンセリンテープが有効であった2症例

○鈴木 景就^{1,2)}、村川麻里子¹⁾、菊地未紗子²⁾

済生会小樽病院 薬剤室¹⁾、済生会小樽病院 緩和ケア内科²⁾

P-112 当院におけるアナモレリンの使用状況と有害事象調査

○松下 尚弘、古賀 清弘、羽田野明子、黒木 吟美、石丸 隆之、野中 敏治

国家公務員共済組合連合会 浜の町病院 薬剤部

P-113 松江市立病院でのアナモレリンの使用状況について

○坪内 敦志、門内優香里、酒井 牧子

松江市立病院 薬剤部

P-114 セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害薬を使用中にメサドンとノルアドレナリン作動性・特異的セロトニン作動性薬の併用でセロトニン症候群を発症した一例

○伊東奈保美¹⁾、辻 若子¹⁾、平澤 宏卓²⁾、住田 俊彦²⁾、澤井 美穂²⁾、大沼紗希子³⁾、
川端 邦裕³⁾

公立学校共済組合 東海中央病院 薬剤部¹⁾、公立学校共済組合 東海中央病院 看護部²⁾、
公立学校共済組合 東海中央病院 緩和ケア内科³⁾

P-115 オシメルチニブとワルファリンの併用により著明なPT-INR上昇が発現した1例

○藤井 良平、今井 雄介、富田 詩織、石倉 遥、宇都宮敦子、西山 徳人、打谷 和記、
谷川 昇

関西医科大学附属病院 薬剤部

P-116 胃瘻患者に対してモルヒネ硫酸塩水和物徐放細粒2%にオピオイドスイッチし、けんだくボトルを用いて簡易懸濁投与した症例

○黒田 秀之

みたき総合病院 薬剤部

P-117 主治医は緩和ケアチームからの提案をどれくらい受け入れてくれたか

○増田 智美^{1,2)}、今井 洋子^{1,3)}、黒崎 亮^{1,4)}

前橋赤十字病院 緩和ケアチーム¹⁾、前橋赤十字病院 薬剤部²⁾、
前橋赤十字病院 看護部³⁾、前橋赤十字病院 外科⁴⁾

P-118 当院における麻薬WGの活動報告

○鈴木 友宜¹⁾、浦田美穂子²⁾、高橋 美香²⁾、伊藤 剛貴³⁾、茂木 孝裕³⁾、木村 直也³⁾

草加市立病院 緩和ケア科¹⁾、草加市立病院 看護部²⁾、草加市立病院 薬剤部³⁾

P-119 がん患者の服薬剤数の調査～ポリファーマシーの視点から～

○河合 真依¹⁾、松浦 由喜²⁾、新 文¹⁾、井上 千紘¹⁾、西田 佳織¹⁾、箱崎菜都実¹⁾、
藤本 仁美¹⁾、吉岡 麻理¹⁾、森 吉男¹⁾

公益財団法人淀川勤労者厚生協会附属 西淀病院 薬局¹⁾、
公益財団法人淀川勤労者厚生協会附属 西淀病院 看護部²⁾

P-120 緩和ケアチーム薬剤師による外来麻薬指導の実績

○佐藤 美櫻、南 貴之、若月淳一郎、佐久間大樹、宮崎 弘康、松本 香織、小林 義文
山梨県立中央病院

P-121 当院における外来患者のがん疼痛コントロール状況とトレーシングレポートを用いた病院薬剤師の介入効果～敷地内薬局との連携～

○金剛 圭佑¹⁾、刈谷 美里¹⁾、井上 祥平²⁾、岡 奈津美²⁾、脇下 大樹¹⁾、松田ゆかり¹⁾、
横町 朋子¹⁾、岡田 秀明³⁾、橋本 泰明¹⁾

神戸低侵襲がん医療センター 薬剤部¹⁾、
株式会社アインファーマシーズ アイン薬局 ポートアイランド店²⁾、
神戸低侵襲がん医療センター 腫瘍内科³⁾

P-122 緩和ケア関連加算取得への取り組み

○渡部 寿康¹⁾、穴澤 詩織²⁾、大竹麻衣子¹⁾

福島赤十字病院 薬剤部¹⁾、福島赤十字病院 医事課²⁾

P-123 メサドンからPCAポンプによるヒドロモルフォン持続皮下注射へスイッチングした在宅患者

○金辻 純子¹⁾、河津 祐里¹⁾、西村 豊¹⁾、佐久間美和²⁾、平本 秀二³⁾

みやこ薬局薬大前店¹⁾、洛和会訪問看護ステーション山科²⁾、ピースホームケアクリニック³⁾

P-124 保険薬局薬剤師によるがん患者に対する医療用麻薬の指導実態の全国調査

○山本 泰大^{1,2)}、宮崎 雅之²⁾、佐藤 淳也²⁾、石原 千春²⁾、槇原 克也²⁾、田口 真穂²⁾、
高瀬 久光²⁾、上園 保仁²⁾

小牧市民病院 薬局¹⁾、日本緩和医療薬学会研究推進委員会(2019-20年度)²⁾

P-125 独居認知症患者の疼痛コントロールと服薬支援に介入した一例

○中丸 和則¹⁾、龍野 英子²⁾、湯川 仁²⁾

仁天堂薬局 戸塚町店¹⁾、仁天堂薬局 本店²⁾

P-126 自宅療養移行後の初回訪問診療前に薬剤師が事前訪問することの有用性

○谷藤 隼人¹⁾、岩崎 正宏¹⁾、植村 由香¹⁾、佐々木 剛²⁾、谷口 亮央³⁾、中島 史雄⁴⁾

ナカジマ薬局 札幌在宅調剤センター¹⁾、ナカジマ薬局 福住在宅調剤センター²⁾、
ナカジマ薬局 薬局事業部³⁾、ナカジマ薬局 薬局本部⁴⁾

- P-127 在宅でのフェンタニル貼付剤の使用が困難であった終末期の認知機能低下患者の看取りに薬剤師が介入した症例
○山下 晃史¹⁾、手島 由道²⁾、大久保尚徳²⁾、矢野脩一郎²⁾、佐藤 弘希³⁾、岡山 善郎³⁾
株式会社ファーマダイワ 南熊本調剤薬局¹⁾、株式会社ファーマダイワ 学術部²⁾、株式会社ファーマダイワ³⁾
- P-128 ファーマシ薬局すこやかにおける退院時共同指導への参加薬剤師の他職種による評価
○熊谷 岳文^{1,2)}、三上 頌太²⁾、大棚 貴史¹⁾
株式会社ファーマシ 山陰西エリア¹⁾、株式会社ファーマシ ファーマシ薬局すこやか²⁾
- P-129 緩和ケア病棟を有さない急性期病院における緩和ケアチーム薬剤師の役割
○塩田 一智¹⁾、江藤 壮志¹⁾、林 みどり¹⁾、松本 茉弓²⁾
多摩北部医療センター 薬剤科¹⁾、多摩北部医療センター 看護部²⁾
- P-130 緩和ケアチームの薬物療法への介入
○山崎 恭平^{1,2)}、竹村 充代^{1,2)}、勝浦 正人¹⁾
市立吹田市民病院 薬剤部¹⁾、市立吹田市民病院 緩和ケアチーム²⁾
- P-131 がん患者サロンのオンライン開催に向けた緩和ケアチームの取り組みについて
○内山 弘子¹⁾、松田あゆみ²⁾、太田 哲徳¹⁾、小酒井仁実¹⁾、伊部 聡子¹⁾、満田 正樹¹⁾、河井 良智¹⁾
関東労災病院 薬剤部¹⁾、関東労災病院 看護部²⁾
- P-132 メサドンの適正使用を推進する処方チェックシート (Methadone Adequate Prescription Check Sheet : MAPCS) の作成
○梅田 鈴香^{1,2)}、佐藤 友紀³⁾、塚越真由美^{2,4)}、佐藤 淳也^{1,2,3)}
国際医療福祉大学病院 薬剤部¹⁾、国際医療福祉大学病院 緩和ケアチーム²⁾、国際医療福祉大学 薬学部³⁾、国際医療福祉大学病院 看護部⁴⁾
- P-133 緩和ケアチームの活動と医療用麻薬の使用状況調査
○金崎さやか¹⁾、浦田 詩乃¹⁾、橋本 知佳¹⁾、喜多岡洋樹¹⁾、楠本 将裕¹⁾、田中由起子¹⁾、早坂 香織¹⁾、吉田 愛¹⁾、田中 泉¹⁾、近藤 元三²⁾、山室 路子¹⁾
熊本市立 熊本市市民病院 薬剤部¹⁾、薬局セントラルファーマシー長嶺²⁾
- P-134 熊本医療センターの緩和担当薬剤師におけるオピオイドカルテ回診についての活動報告
○坂田 光平、藤原 顕弘、吉本 辰暁、馬場 結子
国立病院機構 熊本医療センター 薬剤部
- P-135 膵臓がん術後患者の疼痛に対して多職種連携で良好な除痛が得られた一例
○佐野 彩華^{1,4)}、吉野 和穂^{2,4)}、村山 晴夫¹⁾、柏木 栄一^{1,4)}、松岡みちる^{3,4)}、種市 亜澄³⁾、青木 英也¹⁾、田中 大¹⁾
小田原市立病院 薬剤部¹⁾、小田原市立病院 緩和ケア科²⁾、小田原市立病院 看護部³⁾、小田原市立病院 緩和ケアチーム⁴⁾
- P-136 オピオイドナイーブ患者へのがん疼痛に対するフェンタニル貼付剤の適正使用に関する緩和ケア担当薬剤師の取り組み
○岩崎 綾菜、大野 梨絵、浦田 修平、長友 隆雄、畑中 真理、平原 康寿、池田 龍二
宮崎大学医学部附属病院 薬剤部

P-137 外来化学療法の連携充実加算算定と薬薬連携の更なる充実に向けた取り組み

○宮脇 未来¹⁾、古林 園子¹⁾、比気 真弓²⁾、白田 智子²⁾、宮森 彩香¹⁾、一沢 麻衣¹⁾、
廣瀬 健一¹⁾、牧山 稔¹⁾、大塚 知信¹⁾

国立病院機構 千葉医療センター 薬剤部¹⁾、国立病院機構 千葉医療センター 看護部²⁾

P-138 高齢患者に対する外来でのオピオイド導入から適正使用までの関わり—薬薬連携と電話対応—

○相澤 康子

横須賀市立市民病院 薬剤部

P-139 緩和ケア病棟での取り組みである麻薬注射セット処方的一般病棟への展開にむけて

○小室 拓也、山元 麻衣、山崎 衣莉、原田 悠介、田村 明広

株式会社 日立製作所 日立総合病院 薬務局

P-140 緩和ケアチームが介入した患者の精神科コンサルトから見えた課題と今後の展望

○浦田 詩乃、金崎さやか、橋本 知佳、毛利 昌平、喜多岡洋樹、楠本 将裕、田中由起子、
早坂 香織、吉田 愛、田中 泉、山室 路子

熊本市立熊本市民病院

P-141 当院における抗がん剤治療の薬薬連携への取り組み

○岡野 和真、樋口 純一、益本 周治、高柳 和伸

公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院 薬剤部

P-142 コロナ禍における入院終末期がん患者の自宅退院に関わった症例

○吉田 勝好¹⁾、安木 早紀¹⁾、田原 明子¹⁾、土佐めぐみ²⁾、齋藤 操²⁾、郷原 学¹⁾

益田赤十字病院 薬剤部¹⁾、益田赤十字病院 看護部²⁾

P-143 在宅緩和ケアにむけた携帯型PCAポンプ導入体制の構築

○畝 佳子¹⁾、植田 裕美¹⁾、高屋 麻由¹⁾、音羽 美貴¹⁾、庄野 裕志¹⁾、小島 繁郎⁵⁾、
目片 英治^{2,3,4)}

独立行政法人国立病院機構東近江総合医療センター薬剤部¹⁾、同、地域連携室長²⁾、
同、がん診療センター長³⁾、同、副院長⁴⁾、東近江薬剤師会長⁵⁾

P-144 人吉球磨地域の在宅緩和ケアの現状と注射用麻薬の使用頻度の調査

○藤井 裕史¹⁾、嘉村 基樹¹⁾、渡邊龍太郎²⁾

JCHO人吉医療センター 薬剤部¹⁾、JCHO人吉医療センター 総合診療科²⁾

P-145 病院薬剤師が在宅看取り患者に介入した1例

○藤田 憲一、八本久仁子

国立病院機構 浜田医療センター 薬剤部

P-146 肝癌（多発性肝転移）患者の治療からACPに関与できた1症例

○滝澤 康志、西澤さとみ

飯山赤十字病院 薬剤部

P-147 カペシタビンとワルファリン併用投与により発生したインシデント事例に対する当院での医療安全対策について

○真井 健吾^{1,2)}、田中 良典¹⁾、杉本 佑士^{1,2)}、椎崎 正秀^{1,2)}、平川 智規¹⁾、江崎 聖子¹⁾

公立八女総合病院 薬剤科¹⁾、みどりの杜病院 薬剤科²⁾

- P-148 緩和ケアチーム介入時におけるベンゾジアゼピン系睡眠薬の使用実態調査**
 ○金住 麻子^{1,5)}、門脇 督¹⁾、島津 智行¹⁾、小田島綾子^{2,5)}、佐藤謙太郎^{3,5)}、木村 陽^{4,5)}、三本松泰孝¹⁾、佐藤 弘康¹⁾、田村 広志¹⁾
 JA北海道厚生連 帯広厚生病院 薬剤部¹⁾、JA北海道厚生連 帯広厚生病院 看護部²⁾、JA北海道厚生連 帯広厚生病院 精神科³⁾、JA北海道厚生連 帯広厚生病院 緩和支援治療科⁴⁾、JA北海道厚生連 帯広厚生病院 緩和ケアチーム⁵⁾
- P-149 新たに作成した「がん患者の苦痛緩和のための鎮静に関する院内手引き」を活用して鎮静を行った一例**
 ○土屋 佳世^{1,2)}、小林 瑞穂²⁾、町永 弘美²⁾、畑 千秋²⁾、田中 幸介²⁾、葛西 祐樹²⁾、冬木 晶子²⁾、岩城 慶大²⁾、結束 貴臣²⁾、日下部明彦²⁾、市川 靖史²⁾
 横浜市立大学附属病院 薬剤部¹⁾、横浜市立大学附属病院 緩和ケアセンター²⁾
- P-150 コロナ禍で患者家族の希望に寄り添う在宅緩和ケアへの移行ができた症例**
 ○萩原 里美、畑 加奈子、村本 慎悟、下地 徹、佐藤 彰洋、細瀧喜代志
 くまもと県北病院
- P-151 抗がん剤治療からACP、在宅看取りまで保険薬局薬剤師が係った症例を通して薬剤師が人生の最終段階の医療・ケアに係る意義を考える**
 ○岩崎 章吾
 井手薬品株式会社 井手薬局在宅療養支援つむぎ
- P-152 欠番**
- P-153 がん終末期患者の在宅移行期における訪問医と薬局薬剤師のミーティングに関する検討**
 ○杉浦 聡、高橋 正志
 株式会社マスカット薬局
- P-154 ケアサポートチームによる無菌調剤室共同利用で在宅医療が可能になった事例**
 ○吉田 貴、永村 洋子、高宮 一哲、八木原浩子、前納 啓一
 株式会社 マエノ薬局
- P-155 在宅患者における初回に処方される医療用麻薬の種類と数量に関する調査**
 ○児玉 知子、東 有香、宇津木智美、宮原 公子、安田 重美、阿見寺田鶴子、杉沢 琢磨、室伏 俊秀、岡田 昇、長川 薫、原 敦子
 HYUGA PRIMARY CARE株式会社 きらり薬局 在宅緩和ケアチーム
- P-156 訪問薬剤師による終末期がん患者への薬学的介入に関する検討**
 ○青木 克枝、田口 典子、長谷川 寛
 日本調剤株式会社 在宅医療部
- P-157 廿日市地区および尾道地区の保険薬局薬剤師の緩和医療専門薬剤師研修に対する意識調査**
 ○平井 俊明¹⁾、江草 徳幸²⁾、向井 一樹¹⁾、磯貝 明彦¹⁾、橋本 佳浩¹⁾、堀川 俊二²⁾、渡邊 英晶³⁾、山下 大介⁴⁾、安保 圭介⁵⁾
 JA広島総合病院 薬剤部¹⁾、JA尾道総合病院 薬剤部²⁾、廿日市市薬剤師会³⁾、広島佐伯薬剤師会⁴⁾、尾道薬剤師会⁵⁾

- P-158 医療用麻薬取り扱いマニュアル改訂とその効果の解析**
 ○泉谷 悟、大東 敏和、宮本 佳奈、野津 和良、大本壺沙妃、佐伯 康之、松尾 裕彰
 広島大学病院 薬剤部
- P-159 薬局における在宅緩和医療への介入**
 ○中村恵理子
 そうごう薬局 在宅調剤センター青砥店
- P-160 当薬局における1年間のオピオイド注射剤の調剤実績調査**
 ○田中美都子¹⁾、久米理紗子¹⁾、高妻 深雪¹⁾、滝川 絵美¹⁾、田村 茉有¹⁾、吾妻 美香¹⁾、
 佐久間詠理²⁾、渡邊 淳子²⁾
 水戸薬局 在宅医療支援センター¹⁾、在宅療養支援診療所 わたクリニック²⁾
- P-161 在宅にて高用量フェンタニルクエン酸貼付剤からの部分的なオピオイドスイッチングが有効であった一例**
 ○秋田 章裕、阿部 真也、山口 俊平
 つなぐ薬局 足立
- P-162 がん化学療法薬剤師外来における疼痛治療への介入状況と有用性**
 ○堀 麻衣^{1,2)}、下別府郁子¹⁾、藤原華乃子¹⁾、山先恵里加^{1,2)}、江川 可奈¹⁾、牛島 美里¹⁾、
 井上真理子¹⁾、岩佐 美佳²⁾、前田恵美子³⁾、岩館 峰雄²⁾、小高 雅人⁴⁾
 薫風会 佐野病院 診療技術部 薬局¹⁾、薫風会 佐野病院 緩和ケアサポートチーム²⁾、
 薫風会 佐野病院 外来化学療法室³⁾、薫風会 佐野病院 消化器がんセンター⁴⁾
- P-163 医療用麻薬自己管理マニュアルの認知度及び自己管理に関する意識調査**
 ○中西 順子^{1,2)}、辻 早季¹⁾、篠永 浩¹⁾、原田 典和¹⁾、白川 律子²⁾、加地 努¹⁾
 三豊総合病院 薬剤部¹⁾、三豊総合病院 緩和ケアチーム²⁾
- P-164 疼痛コントロール不十分な患者に対してオピオイドスイッチングを実施して自宅で最期まで過ごせた一事例**
 ○小黑佳代子
 株式会社 ファーマ・プラス プラス薬局高崎吉井店
- P-165 終末期がん患者の調節型鎮静におけるミダゾラムの導入量に関する後方的調査**
 ○櫻間 啓基¹⁾、佐藤みづき¹⁾、西 千春¹⁾、井口 有紀¹⁾、遠山 潤¹⁾、中村 初美¹⁾、
 古閑 悠輝²⁾、甲斐 豊³⁾
 阿蘇医療センター 薬剤部¹⁾、社会保険 大牟田天領病院 消化器外科²⁾、
 阿蘇医療センター 脳神経外科³⁾
- P-166 緩和ケアを専門とする小規模病院で始めた化学療法外来の現状と課題**
 ○谷岡 哲¹⁾、高館 修¹⁾、奥田 衣理¹⁾、喜多 祐也¹⁾、山本 国孝¹⁾、斎藤 里佳²⁾、
 武藤 修一³⁾、冲中 厚介¹⁾
 札幌南徳洲会病院 薬剤部¹⁾、北海道大学病院 腫瘍センター²⁾、
 札幌南徳洲会病院 緩和ケア内科³⁾
- P-167 外来化学療法と在宅緩和ケアが連携する有用性について**
 ○宇野 達也¹⁾、西村 和紘¹⁾、柴田 賢三²⁾、野尻 悠斗²⁾
 ヤナセ薬局 在宅医療部¹⁾、センター調剤薬局豊田厚生病院前店²⁾

- P-168 末期心不全患者が、機械式持続注入ポンプを使用することで在宅療養可能となった一症例**
○西村 淳
日本調剤 香川大前薬局
- P-169 保険薬局の在宅緩和医療における薬剤師業務に関する実態調査
～旧健康保険・介護保険対策委員会企画～**
○稲葉 一郎¹⁾、天方 奉子¹⁾、岡本 禎晃²⁾、金子 健³⁾、萩田 均司⁴⁾、萬谷摩美子⁵⁾、
龍 恵美⁶⁾、鈴木 順子⁷⁾
薬局セントラルファーマシー長嶺¹⁾、市立芦屋病院²⁾、慶應義塾大学病院 薬剤部³⁾、
るりこし薬局⁴⁾、医療法人愛和会 愛和病院⁵⁾、長崎大学病院⁶⁾、北里大学⁷⁾
- P-170 緩和ケアチームにおける薬剤師業務、および緩和ケア病棟での薬剤師の働きに関する実態調査
～旧健康保険・介護保険対策委員会企画～**
○稲葉 一郎¹⁾、天方 奉子¹⁾、岡本 禎晃²⁾、金子 健³⁾、萩田 均司⁴⁾、萬谷摩美子⁵⁾、
龍 恵美⁶⁾、鈴木 順子⁷⁾
薬局セントラルファーマシー長嶺¹⁾、市立芦屋病院²⁾、慶應義塾大学病院 薬剤部³⁾、
るりこし薬局⁴⁾、医療法人愛和会 愛和病院⁵⁾、長崎大学病院⁶⁾、北里大学⁷⁾
- P-171 中学生に対する学年縦断的ながん教育の実施とその教育効果**
○徳田 華歩¹⁾、横山 郁子¹⁾、北 夏実¹⁾、森山 由理¹⁾、國正 淳一¹⁾、藤本 佳昭²⁾、
河内 正二¹⁾、沼田千賀子¹⁾
神戸薬科大学 総合教育研究センター¹⁾、神戸大学附属中等教育学校²⁾
- P-172 10代から学ぶ医療制度 ―がん教育の実施を通して―**
○北 夏実¹⁾、横山 郁子¹⁾、徳田 華歩¹⁾、森山 由理¹⁾、國正 淳一¹⁾、藤本 佳昭²⁾、
河内 正二¹⁾、沼田千賀子¹⁾
神戸薬科大学 総合教育研究センター¹⁾、神戸大学附属中等教育学校²⁾
- P-173 がん教育を通して生と死を考える**
○森山 由理¹⁾、横山 郁子¹⁾、北 夏実¹⁾、徳田 華歩¹⁾、國正 淳一¹⁾、藤本 佳昭²⁾、
河内 正二¹⁾、沼田千賀子¹⁾
神戸薬科大学 総合教育研究センター¹⁾、神戸大学附属中等教育学校²⁾
- P-174 小学生を対象としたがん・麻薬教育実施の効果～保険薬局薬剤師の取り組み～**
○吾妻 美香¹⁾、今西 利香²⁾、管野志保子²⁾、野口美都子¹⁾、若尾 亜耶³⁾
水戸薬局 在宅医療支援センター¹⁾、株式会社 水戸薬局²⁾、ミント薬局 鎌倉店³⁾
- P-175 獨協医科大学病院薬剤部における医療用麻薬自己管理に対する意識調査**
○太田 栄亮、佐藤 朱美、外山 智章、臼井 悟、本田 雅巳
獨協医科大学病院 薬学部
- P-176 薬剤師を対象とした緩和ケアチーム協力員合同会議の取り組み**
○清住 友香¹⁾、田中 順子¹⁾、叶 朋子¹⁾、内田 隆¹⁾、中嶋 梨紗¹⁾、川田代康介¹⁾、
松下 留美³⁾、鳥崎 哲平⁴⁾、森枝 悟²⁾、吉武 淳²⁾、齋藤 秀之¹⁾
熊本大学病院 薬剤部¹⁾、熊本大学病院 がんセンター²⁾、
熊本大学病院 事務部 医療サービス課³⁾、大腸肛門病センター高野病院 緩和ケア科⁴⁾
- P-177 がん患者に対するAudit System導入による病状アセスメント強化と薬物治療向上（第3報）**
○淡路 健作、深尾 彰平、竹下絵梨香、菅谷 量俊、高瀬 久光
日本医科大学多摩永山病院 薬剤部

P-178 演題取り下げ

P-179 補完代替療法への応用を指向したロボットのストレス緩和効果に関する基礎的研究

○岡元ちよみ¹⁾、畔蒜祐一郎¹⁾、高木 千明¹⁾、中川 沙織²⁾、立川 英一¹⁾、平田 尚人¹⁾、
太田 伸¹⁾、下枝 貞彦¹⁾

東京薬科大学 薬学部 臨床薬剤学教室¹⁾、新潟薬科大学 薬学部 薬品分析化学研究室²⁾

P-180 PARO[®]を用いたロボット介在療法のストレス緩和効果に関する基礎的研究
～動物介在療法における諸問題克服を目指して～

○平澤 笑¹⁾、畔蒜祐一郎¹⁾、高木 千明¹⁾、中川 沙織²⁾、立川 英一¹⁾、平田 尚人¹⁾、
太田 伸¹⁾、下枝 貞彦¹⁾

東京薬科大学 薬学部 臨床薬剤学教室¹⁾、新潟薬科大学 薬学部 薬品分析化学研究室²⁾

P-181 COVID-19患者における呼吸困難緩和に対するヒドロモルフォン注射液の使用実態調査

○添田 侑希¹⁾、後藤総太郎¹⁾、米窪 恭子¹⁾、石原 溶子¹⁾、鈴木 梢²⁾

がん・感染症センター 都立駒込病院 薬剤科¹⁾、
がん・感染症センター 都立駒込病院 緩和ケア科²⁾

P-182 後発医薬品の出荷調整によるせん妄に使用されるクエチアピンの後発品使用率および薬剤料への影響

○向井恵利紗¹⁾、近藤 悠希²⁾、近藤 智子^{1,3)}、三浦 梓¹⁾、久保田佳代子¹⁾、淵田 健明¹⁾、
石塚 洋一²⁾、山門慎一郎¹⁾

株式会社 南日本薬剤センター¹⁾、
熊本大学大学院生命科学研究部・薬学部 臨床薬理学分野²⁾、
鹿児島大学ヒトレトロウイルス学共同研究センター³⁾

P-183 演題取り下げ

P-184 緩和ケア病棟入棟患者におけるPaPスコアを用いた予後予測を行うことの有用性の検証

○西本 凜、松本 拓真、河田 武志、濱岡 照隆、升味 紀子、相良 義弘

独立行政法人国立病院機構 岩国医療センター 薬剤部

P-185 持参薬として持ち込まれがんに疼痛で医療用麻薬を使用している入院・転院患者の医療用麻薬廃棄状況

○笹木 洋

森下病院 薬局

P-186 新型コロナウイルス感染症患者に対するオピオイドの使用実態調査

○村田 美帆、宮澤 真帆、村上修太郎、寺山 義泰

東京都立多摩総合医療センター 薬剤科

P-187 薬局におけるアドバンス・ケア・プランニング（ACP）への取り組み

○眞田香帆里

株式会社ハーモニー ハーモニー薬局

P-188 熊本県及び福岡市における麻薬廃棄量に関する解析

○太田 麻美¹⁾、倉田真之介¹⁾、立麻 香帆¹⁾、原口 恵子²⁾、田城 涼子²⁾、北 智之²⁾、
徳永 雄大²⁾、藤本 拓郎²⁾、柴山 和弘²⁾、島添 隆雄¹⁾

九州大学大学院 薬学研究院 臨床育薬学分野¹⁾、一般社団法人福岡市薬剤師会²⁾